資料2

2009年8月4日

お茶の水女子大学委託研究・補完調査について

耳塚寛明

保護者等に対する補完的な追加調査を設計・実施し、その中で、個人情報を保護しつつデータを収集する手法や、全国調査と補完的な追加調査のデータを結合する手法の開発を行うとともに、得られたデータを用いて、家庭背景と子どもの学力の関係や不利な環境にある子どもの底上げに成功している学校の特徴を探る。

１．調査対象

公立学校第６学年の児童の担任教員および保護者（質問紙調査）

２．**調査対象校**

５政令都市の100 校（対象校の選定にあたっては、児童数21 名以上の公立小学校を無作為に20 校（１市あたり）を抽出した。）

※個人情報を保護したデータ収集方法およびデータ結合の方法は別紙を参照

３．補完調査の設計等と個人情報を保護したデータ収集手法の開発

保護者、教員を対象とした追加調査を行うことで、家庭環境、学校環境を含む、児童の学習環境や学習状況に関するデータを補完する。とりわけ保護者調査に関して、個人情報を保護しつつデータを蒐集する方法を開発する。

４．上記補完調査のデータと全国調査のデータとを結合する手法の開発・実施

全国調査のデータと補完的調査のデータを結合するため、個人情報に保護しつつ紐付け表を活用する手法の開発を行う。

５．今回報告の分析の視点

得られたデータを分析して、家庭背景と子どもの学力等の関係、不利な環境にある子どもの底上げに成功している学校の特徴を探る。

６．実施体制

お茶の水女子大学に「実施委員会」を設置して調査研究を実施。委員メンバーは以下の７名である。

耳塚 寛明（お茶の水女子大学・人間文化創成科学研究科・教授）
志水 宏吉（大阪大学・人間科学研究科・教授）
金子 真理子（東京学芸大学・教員養成ｶﾘｷｭﾗﾑ開発研究ｾﾝﾀｰ・准教授）
山田 哲也（大阪大学・人間科学研究科・准教授）
小玉 重夫（東京大学・教育学研究科・准教授）
冨士原 紀絵（お茶の水女子大学・人間文化創成科学研究科・准教授）
浜野 隆（お茶の水女子大学・人間文化創成科学研究科・准教授）

７．回収状況

①調査種別回収状況

保護者調査

児童数	有効数	非同意	未返送	有効回収率
8093	5847	493	1753	72.2%

教員調査

学級数	有効数	有効回収率
256	244	95.3%

②主要属性別回収票の構成

保護者調査

	A 市	B 市	C 市	D 市	E 市	合計	n
市	21.2	20.4	20.7	17.8	20.0	100.0	5847

	200万円未満	200～300万円	300～400万円	400～500万円	500～600万円	600～700万円	700～800万円	800～900万円	900～1,000万円	1,000～1,200万円	1,200～1,500万円	1,500万円以上	無回答	合計	n
世帯年収	3.5	5.0	7.1	9.2	11.2	10.1	10.4	7.7	6.8	9.8	5.4	4.8	9.0	100.0	5847

教員調査

	A 市	B 市	C 市	D 市	E 市	合計	n
市	21.3	22.1	19.7	18.0	18.9	100.0	244

	男性	女性	無回答	合計	n
性別	49.2	48.8	2.0	100.0	244

	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50 歳以上	無回答	合計	n
年齢	20.5	23.0	32.4	20.1	4.1	100.0	244

	5 年目以下	6～10 年目	11～15 年目	16～20 年目	21～25 年目	26 年目以上	無回答	合計	n
教職経験年数	26.2	10.2	9.4	14.8	13.1	22.5	3.7	100.0	244

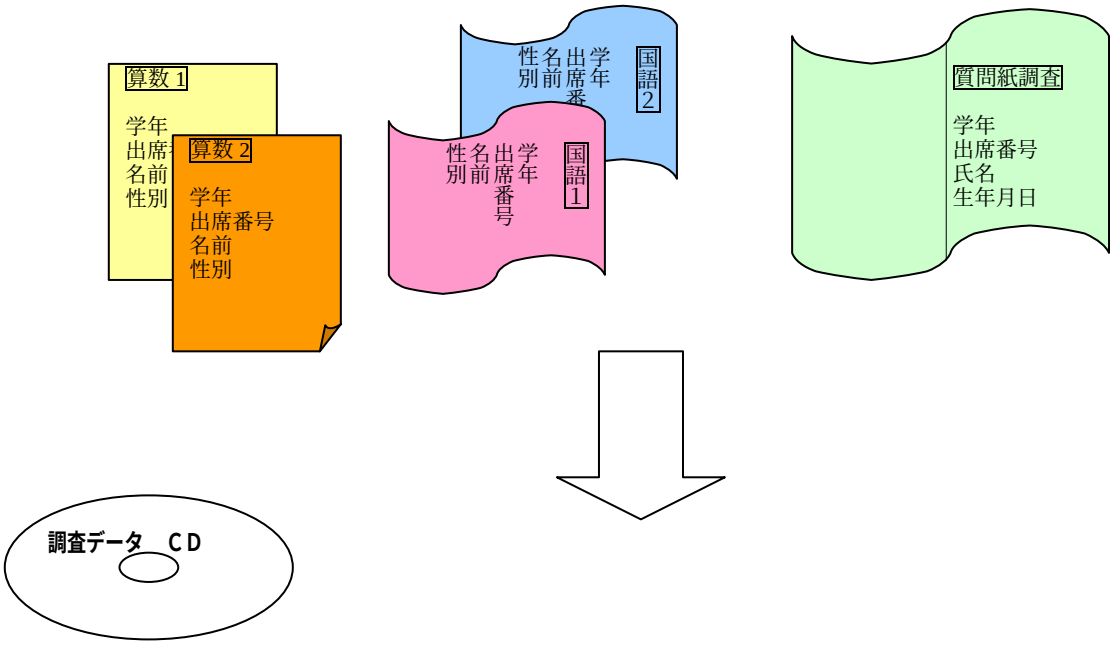
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年以上	無回答	合計	n
現任校の勤務年数	7.4	15.6	23.0	17.2	13.5	19.7	3.7	100.0	244

	なし	あり	無回答	合計	n
教師以外の勤務経験	77.0	18.4	4.5	100.0	244

とくに得意としている科目	国語	算数	社会	理科	保健体育	音楽	家庭	図画工作	生活	総合的な学習	その他
「はい」の%	14.8	15.6	17.2	8.2	19.3	15.2	5.7	10.2	2.0	4.5	3.7

個人情報を保護したデータ収集方法およびデータ結合の方法

①全国学力･学習状況調査の実施（文部科学省）



平成２０年度全国学力・学習状況調査

解答状況　［国語Ａ：主として知識］

○○市立○○小学校　第６学年　１組

学年	組	個人票コード	付記欄	正答数	1ー（1）		1ー（2）		1ー（3）	
					正誤	解答類型	正誤	解答類型	正誤	解答類型
6	1	10001		99	○	9	○	9	○	9
6	1	10002		99	○	9	○	9	○	9
6	1	10003		99	○	9	○	9	○	9
6	1	10004		99	○	9	○	9	○	9
6	1	10005		99	○	9	○	9	○	9

平成２０年度全国学力・学習状況調査　　**小学校調査**

個人票照合表

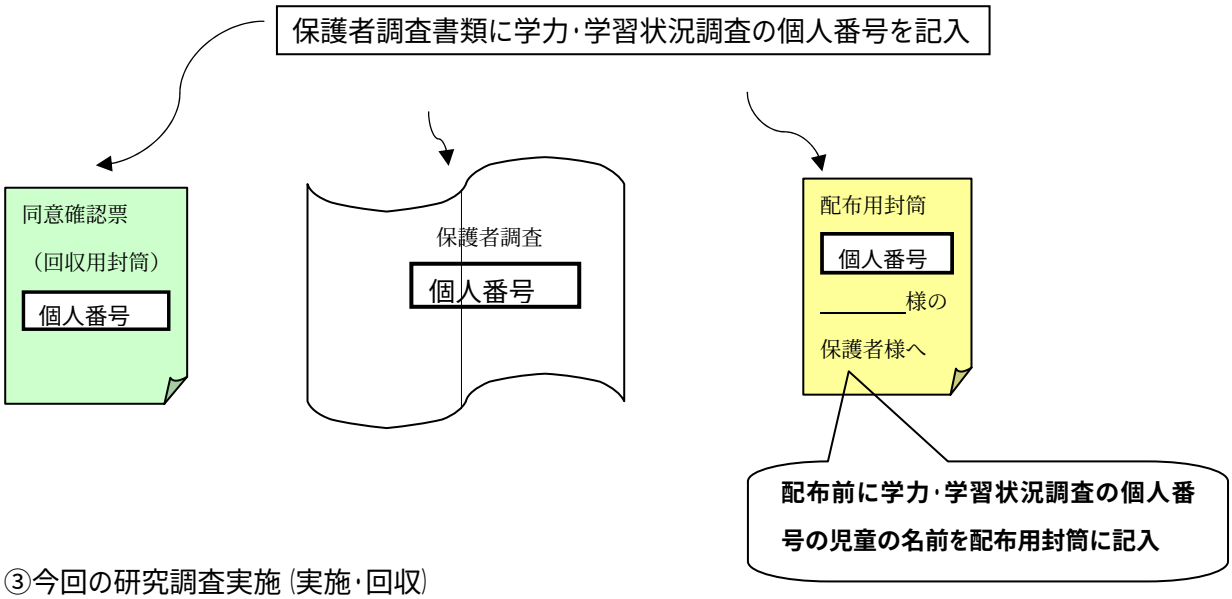
○○市立○○小学校

個人票コード	個人票				学年	組	出席番号		性別	個人番号		
	国語A	国語B	算数A	算数B								
10001					6	1	0	1	2	3	0	0
10002					6	1	0	2	2	3	0	1
10003					6	1	0	3	1	3	0	2
10004					6	1	0	4	2	3	0	3

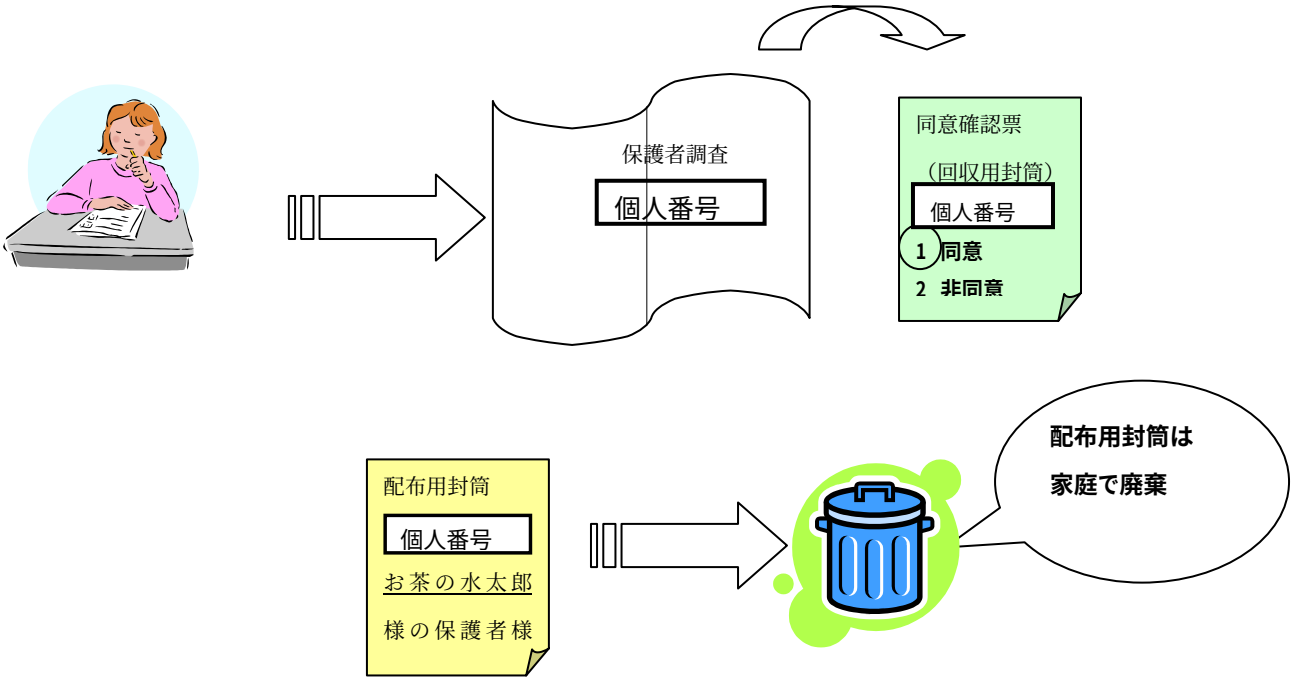
②今回の研究調査実施（配布）

①の学力・学習状況調査のデータを文部科学書から貸与してもらい、学力・学習状況調査の児童の個人番号を今回の研究調査のＩＤとして使用する。

データの貸与にあたっては、各調査校（学校長）からデータ使用についての許諾を書面で得ている。



③今回の研究調査実施（実施･回収）



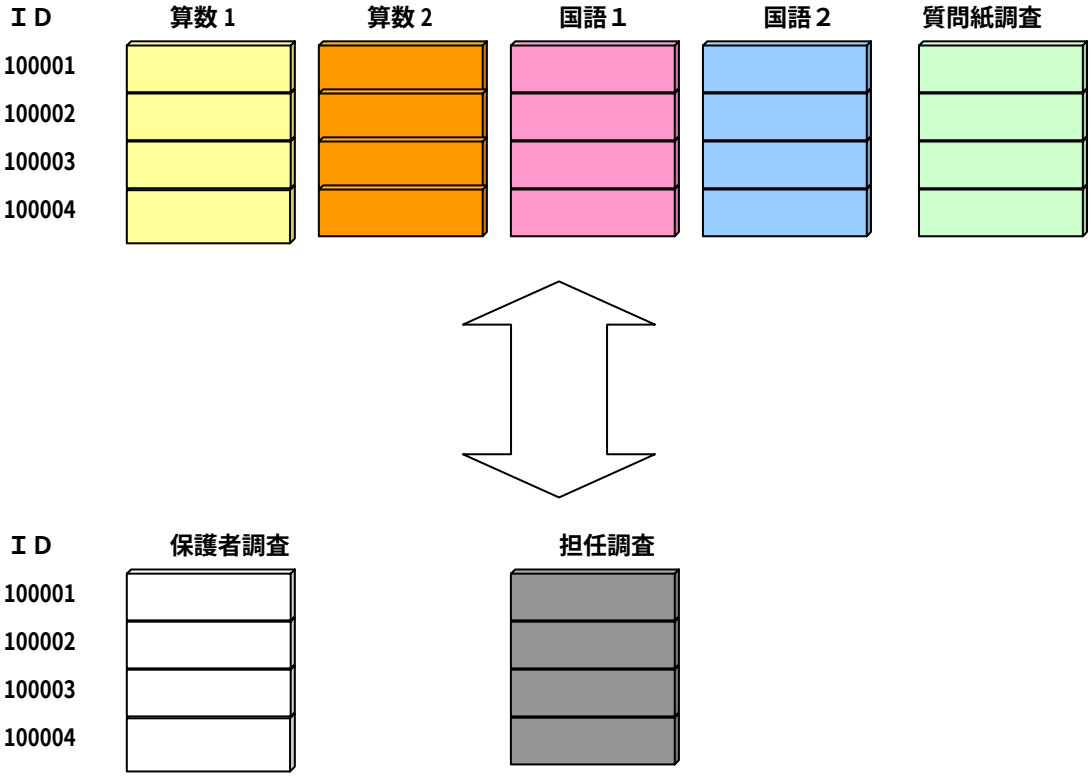
今回の調査は、任意のものであり、調査への協力・非協力は、保護者の自由意志であることを記載した上で、保護者に、学力・学習状況調査の児童の「データの使用」及び保護者自身の「アンケートへの協力」について同意・非同意の意思を回答してもらい、（調査への協力に同意された方のみ）アンケートに記入、同意確認票兼回収用封筒（緑色の封筒）に厳封した上で提出する。非同意の場合も、その意思確認のため、同意確認票兼回収用封筒のみ提出。

同意確認票**兼回収用封筒に封入せず、回収された場合は、意思確認できないので、学校で廃棄。**

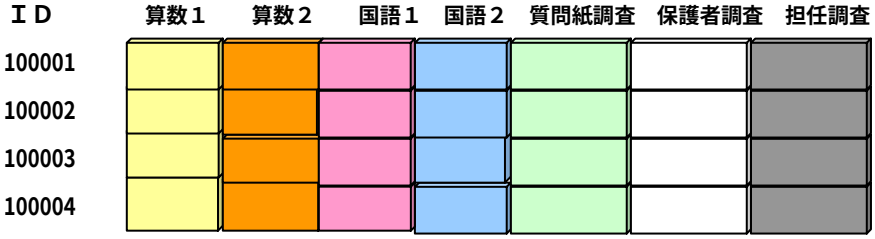
④学校から回収してデータ作成

個人番号を個人票コードに変換

⑤学力･学習状況調査のデータに今回の研究調査データを結合



データのイメージ



家庭背景と子どもの学力等の関係(案)

浜野　隆（お茶の水女子大学）

１．分析課題

本稿は、主として保護者への質問紙調査から得られたデータをもとに、家庭環境と子どもの学力の関係について分析するものである。具体的な分析課題は以下の 7 点である。（なお、本稿では、教科に関する調査の正答率を「学力」と表現している）

（１）家庭背景（世帯年収、学校外支出などの背景変数）と子どもの学力の関係
（２）学校外教育支出の背景
（３）保護者の子どもへの接し方と子どもの学力との関係
（４）保護者の普段の行動と子どもの学力との関係
（５）家庭環境と学力との関係についての総合分析
（６）子どもの家庭でのテレビ視聴時間と学力との関係
（７）保護者の意識・行動と子どもの意識・行動・学力

２．分析方法および主要な知見

（１）家庭背景（世帯年収、学校外支出などの背景変数）と子どもの学力の関係

①世帯年収

表１は、世帯年収と子どもの学力との関係を示したものである。これを見ると、年収が高い世帯の子どもほど概ね正答率は高いということが見て取れる（ただし、国語、算数とも、年収 1500 万円以上の世帯は 1200 万円～1500 万円の世帯に比べ、わずかながら正答率は下がる）。

表1　世帯年収と子どもの学力

世帯年収		正答率_国語A	正答率_国語B	正答率_算数A	正答率_算数B
200万円未満	平均値	56.5	43.2	62.9	42.6
	人数	207	207	207	207
200万円以上～300万円未満	平均値	59.9	44.2	66.4	45.7
	人数	295	295	295	295
300万円以上～400万円未満	平均値	62.8	47.3	67.7	47.6
	人数	417	417	417	417
400万円以上～500万円未満	平均値	64.7	50.9	70.6	51.2
	人数	539	539	539	539
500万円以上～600万円未満	平均値	65.2	51.6	70.8	51.2
	人数	652	652	652	652
600万円以上～700万円未満	平均値	69.3	55.1	74.8	55.5
	人数	591	591	591	591
700万円以上～800万円未満	平均値	71.3	57.6	76.6	57.1
	人数	608	608	608	608
800万円以上～900万円未満	平均値	73.4	59.6	78.3	60.5
	人数	449	449	449	449
900万円以上～1，000万円未満	平均値	72.8	58.4	79.1	59.7
	人数	399	399	399	399
1，000万円以上～1，200万円未満	平均値	75.6	62.5	81.2	62.8
	人数	571	571	571	571
1，200万円以上～1，500万円未満	平均値	78.7	64.9	82.8	65.9
	人数	314	314	314	314
1，500万円以上	平均値	77.3	64.3	82.5	65.6
	人数	280	280	280	280
合計	平均値	69.4	55.5	74.8	55.8

年収 200 万円未満の世帯と 1200 万円～1500 万円の世帯を比較すると正答率は約 20 ポイントもの差がある。ここで注目されるのは、算数の B 問題で年収による最も差が大きいということである。

②学校外教育支出

表２は、学校外教育支出と子どもの学力との関係を示したものである。ここからは、学校外教育支出が多い世帯ほど正答率が高いことが読み取れる。「支出が全くない」と「5 万円以上」の正答率の差は、国語 A で 25.0 ポイント、国語 B で 24.7 ポイント、算数 A で 22.7 ポイント、算数 B で 26.8 ポイントとなっている。世帯年収と同様、ここでも算数 B において差が最も大きい。

表2　学校外教育支出と学力の関係

学校外教育支出		正答率_国語A	正答率_国語B	正答率_算数A	正答率_算数B
5千円未満	平均値	63.4	49.2	68.9	51.4
	人数	732	732	732	732
5千円以上～1万円未満	平均値	66.0	52.2	71.7	52.6
	人数	1240	1240	1240	1240
1万円以上～1万5千円未満	平均値	68.4	54.2	73.7	54.7
	人数	898	898	898	898
1万5千円以上～2万円未満	平均値	70.3	55.4	76.3	55.9
	人数	716	716	716	716
2万円以上～2万5千円未満	平均値	72.4	59.1	78.0	58.2
	人数	472	472	472	472
2万5千円以上～3万円未満	平均値	73.1	59.6	79.1	58.6
	人数	367	367	367	367
3万円以上～5万円未満	平均値	78.4	64.8	83.0	64.7
	人数	585	585	585	585
5万円以上	平均値	83.9	70.3	87.6	71.2
	人数	366	366	366	366
支出はまったくない	平均値	58.9	45.6	64.9	44.4
	人数	431	431	431	431
無回答	平均値	70.0	56.7	72.5	55.2
	人数	40	40	40	40
合計	平均値	69.4	55.5	74.8	55.8
	人数	5847	5847	5847	5847

③通塾

表３は、通塾と学力との関係を示したものである。これをみると、通塾による正答率の差は見られるものの、正答率が最も高いのが「学校より進んだ内容や難しい内容を勉強する塾」に通っている子どもである。「学校より進んだ内容や難しい内容」と「学校の勉強でよくわからなかった内容」の両方を勉強する塾に通っている子どもがそれに次いで正答率が高く、次いで「学習塾に通っていない」「どちらの学習内容ともいえない塾」、「学校の勉強でよくわからなかった内容を勉強する塾」となっている。この結果は、通塾が学力に影響するとともに、子どもの学力の水準によって行く塾の性格が変わってくることを示していると思われる。ここでは、「学習塾に通っていない」子どもの平均点は全体の平均点とほぼ同じであることにも注目しておく必要があろう。

④教育支出の家計負担度

表４は、教育支出が家計にとってどの程度負担に感じるかと子どもの学力との関係を示したものである。これを見ると、「とても負担に感じる」と感じている家庭の方が子どもの学力は高いが、「とても負担に感じる」と「全く負担に感じない」との正答率の差は４～６ポイント程度であり、それほど

強い関係があるとはいえない。

表3　通塾と学力の関係

学習塾		正答率_国語A	正答率_国語B	正答率_算数A	正答率_算数B
無回答	平均値	54.5	37.9	59.3	35.7
	人数	11	11	11	11
1．学習塾に通っていない	平均値	68.1	54.8	73.3	54.7
	人数	2558	2558	2558	2558
2．学校の勉強より進んだ内容や，難しい内容を勉強している	平均値	76.8	62.5	82.3	63.6
	人数	1798	1798	1798	1798
3．学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している	平均値	57.9	41.8	64.1	42.1
	人数	416	416	416	416
4．2，3の両方の内容を勉強している	平均値	73.4	59.5	79.1	58.2
	人数	553	553	553	553
5．2，3の内容のどちらともいえない	平均値	64.9	48.7	70.8	50.4
	人数	421	421	421	421
その他	平均値	29.4	27.4	48.1	30.8
	人数	7	7	7	7
欠票	平均値	8.8	6.3	9.0	5.1
	人数	83	83	83	83
合計	平均値	69.4	55.5	74.8	55.8
	人数	5847	5847	5847	5847

表4　教育支出の家計負担度と子どもの学力の関係

教育支出の家計負担度		正答率_国語A	正答率_国語B	正答率_算数A	正答率_算数B
とても負担に感じる	平均値	72.6	57.1	77.6	57.0
	人数	421	421	421	421
やや負担に感じる	平均値	70.8	57.2	76.7	57.4
	人数	2030	2030	2030	2030
あまり負担に感じない	平均値	69.1	55.0	74.2	55.5
	人数	2499	2499	2499	2499
まったく負担に感じない	平均値	66.0	53.0	71.4	53.3
	人数	803	803	803	803
合計	平均値	69.4	55.5	74.8	55.8
	人数	5847	5847	5847	5847

（2）学校外教育支出の背景

前節で「学校外教育支出」が子どもの学力と強く関係していることがわかったが、では、「学校外教育支出」の背景にはどのような変数があるのだろうか。ここでは、世帯年収、きょうだい数との関係をみてみたい。

①世帯年収と学校外教育支出

表 5 は、世帯年収と学校外教育支出の関係を示したものである。これを見ると、世帯年収が高くなるにつれ学校外教育支出も増える傾向にある。世帯年収 200 万円未満の約半数の世帯が学校外教育支出「月に 5000 円未満」であるのに対し、世帯年収 1500 万円以上の約半数の世帯が学校外教育支出「月に 3 万円以上」となっている。世帯年収が高いほど子どもの教育により多くの金額を投資する余裕があるため、このような関係が生じていると思われる。

表5　世帯年収 と 学校外支出の関係

			学校以外の教育（塾や習い事）にかける1か月の支出										合計
			5千円未満	5千円以上～1万円未満	1万円以上～1万5千円未満	1万5千円以上～2万円未満	2万円以上～2万5千円未満	2万5千円以上～3万円未満	3万円以上～5万円未満	5万円以上	支出はまったくない	無回答	
世帯年収	200万円未満	人数	55	62	20	9	6	2	1	2	49	1	207
		%	26.6	30.0	9.7	4.3	2.9	1.0	0.5	1.0	23.7	0.5	100.0
	200万円以上～300万円未満	人数	74	88	39	26	7	12	10	1	37	1	295
		%	25.1	29.8	13.2	8.8	2.4	4.1	3.4	0.3	12.5	0.3	100.0
	300万円以上～400万円未満	人数	86	110	65	44	26	10	15	3	58	0	417
		%	20.6	26.4	15.6	10.6	6.2	2.4	3.6	0.7	13.9	0.0	100.0
	400万円以上～500万円未満	人数	102	159	91	49	30	21	17	9	60	1	539
		%	18.9	29.5	16.9	9.1	5.6	3.9	3.2	1.7	11.1	0.2	100.0
	500万円以上～600万円未満	人数	97	166	123	83	40	39	29	15	59	1	652
		%	14.9	25.5	18.9	12.7	6.1	6.0	4.4	2.3	9.0	0.2	100.0
	600万円以上～700万円未満	人数	86	141	107	64	46	33	49	24	38	3	591
		%	14.6	23.9	18.1	10.8	7.8	5.6	8.3	4.1	6.4	0.5	100.0
	700万円以上～800万円未満	人数	51	123	106	97	67	44	52	32	35	1	608
		%	8.4	20.2	17.4	16.0	11.0	7.2	8.6	5.3	5.8	0.2	100.0
	800万円以上～900万円未満	人数	31	94	56	76	47	39	53	33	18	2	449
		%	6.9	20.9	12.5	16.9	10.5	8.7	11.8	7.3	4.0	0.4	100.0
	900万円以上～1，000万円未満	人数	34	62	66	68	39	23	69	26	9	3	399
		%	8.5	15.5	16.5	17.0	9.8	5.8	17.3	6.5	2.3	0.8	100.0
	1，000万円以上～1，200万円未満	人数	34	69	79	82	79	53	106	56	12	1	571
		%	6.0	12.1	13.8	14.4	13.8	9.3	18.6	9.8	2.1	0.2	100.0
	1，200万円以上～1，500万円未満	人数	11	29	30	41	27	34	70	57	11	4	314
		%	3.5	9.2	9.6	13.1	8.6	10.8	22.3	18.2	3.5	1.3	100.0
	1，500万円以上	人数	8	20	23	22	25	38	71	67	4	2	280
		%	2.9	7.1	8.2	7.9	8.9	13.6	25.4	23.9	1.4	0.7	100.0
	無回答	人数	63	117	93	55	33	19	43	41	41	20	525
		%	12.0	22.3	17.7	10.5	6.3	3.6	8.2	7.8	7.8	3.8	100.0
合計		人数	732	1240	898	716	472	367	585	366	431	40	5847
		%	12.5	21.2	15.4	12.2	8.1	6.3	10.0	6.3	7.4	0.7	100.0

②きょうだい数と学校外支出

きょうだい数と学校外教育支出の関係はどうであろうか。きょうだいが多い家庭は一人あたりの子どもへの投資額も少なくなるのだろうか。表６は、きょうだい数と学校外教育支出の関係を見たものである。これを見ると、きょうだい数が少ないほうが学校外教育支出は多くなっていることがわかる。学校外教育支出「月に２万５千円以上」の世帯は、きょうだい数「０」では 32.5%、きょうだい数「１」では 24.2%、きょうだい数「２」では 15.7%となっている。

表6　きょうだい数 と 学校外支出の関係

			学校以外の教育（塾や習い事）にかける1か月の支出										合計
			5千円未満	5千円以上～1万円未満	1万円以上～1万5千円未満	1万5千円以上～2万円未満	2万円以上～2万5千円未満	2万5千円以上～3万円未満	3万円以上～5万円未満	5万円以上	支出はまったくない	無回答	
きょうだい数	0人	度数	69	135	123	112	73	66	119	88	48	8	841
		%	8.2	16.1	14.6	13.3	8.7	7.8	14.1	10.5	5.7	1.0	100.0
	1人	度数	339	664	500	413	289	219	350	203	188	22	3187
		%	10.6	20.8	15.7	13.0	9.1	6.9	11.0	6.4	5.9	0.7	100.0
	2人	度数	254	372	239	167	95	69	100	68	138	10	1512
		%	16.8	24.6	15.8	11.0	6.3	4.6	6.6	4.5	9.1	0.7	100.0
	3人	度数	50	60	33	22	12	11	11	6	45	0	250
		%	20.0	24.0	13.2	8.8	4.8	4.4	4.4	2.4	18.0	0.0	100.0
	4人以上	度数	20	9	3	2	3	2	5	1	12	0	57
		%	35.1	15.8	5.3	3.5	5.3	3.5	8.8	1.8	21.1	0.0	100.0
合計		度数	732	1240	898	716	472	367	585	366	431	40	5847
		%	12.5	21.2	15.4	12.2	8.1	6.3	10.0	6.3	7.4	0.7	100.0

（３）保護者の子どもへの接し方や教育意識と子どもの学力との関係

保護者調査では、保護者が普段子どもにどのような接し方をしているか、どのような学習環境づくりをしているか、どのような教育意識を持っているかを尋ねている。保護者の子どもへの接し方は、子どもの学力とどのように関係しているのだろうか。表７は、子どもを学力水準別にＡ層（最も学力が高い層）からＤ層（最も学力が低い層）にまで四分し、保護者の子どもへの接し方や教育意識をこの

層別に見たものである（ここではA層とD層の比較をしている）。

表７を見ると、A 層と D 層との間で非常に大きな差のある項目とほとんど差がない項目があることがわかる。また、国語と算数で（あるいは、A 問題と B 問題との間で）若干傾向は異なる。国語 A において A 層と D 層との差が最も大きいのは「家には、本（マンガや雑誌を除く）がたくさんある」（28.1 ポイント差）、次いで「親が言わなくても子どもは自分から勉強している」（24.8 ポイント差）、「子どもが英語や外国の文化に触れるよう意識している」（23.3 ポイント差）、「子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをした」（21.2 ポイント差）、「ニュースや新聞記事について子どもと話す」（20.0 ポイント差）、の順となっている。国語 B において A 層と D 層との差が最も大きいのは、「親が言わなくても子どもは自分から勉強している」（26.1 ポイント差）である。次いで、「家には、本（マンガや雑誌を除く）がたくさんある」（25.9 ポイント差）、「子どもが英語や外国の文化に触れるよう意識している」（23.1 ポイント差）、「子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをした」（20.3 ポイント差）、「ニュースや新聞記事について子どもと話す」（18.1 ポイント差）、の順となっている。

表7　親の子どもへの接し方と子どもの学力の関係

「とても」と「まあ」の合計（%）	国語A			国語B			算数A			算数B		
	A層	D層	差（A−D）	A層	D層	差（A−D）	A層	D層	差（A−D）	A層	D層	差（A−D）
子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをした	83.0	61.8	21.2	82.9	62.6	20.3	80.7	65.8	14.9	80.9	62.4	18.5
博物館や美術館に連れて行く	38.0	21.7	16.3	37.5	20.7	16.8	36.0	21.6	14.4	37.7	21.8	15.9
ほとんど毎日、子どもに「勉強しなさい」という	42.4	51.8	−9.4	41.6	53.0	−11.4	46.4	47.1	−0.7	43.7	50.1	−6.4
毎日子どもに朝食を食べさせている（注）	91.5	80.5	11.0	90.8	81.6	9.2	91.7	81.0	10.7	91.5	80.5	11.0
子どもの勉強をみて教えている	49.1	48.3	0.8	49.2	47.8	1.4	49.9	48.4	1.5	49.2	48.5	0.7
子どもに一日の出来事を聞く	87.3	83.0	4.3	87.4	80.3	7.1	87.0	84.4	2.6	85.8	83.9	1.9
子どもを決まった時間に寝かすようにしている	81.5	69.8	11.7	80.4	72.7	7.7	81.3	71.2	10.1	80.8	71.6	9.2
ニュースや新聞記事について子どもと話す	82.7	62.7	20.0	82.4	64.3	18.1	81.7	64.8	16.9	81.4	65.0	16.4
家には、本（マンガや雑誌を除く）がたくさんある	73.1	45.0	28.1	71.7	45.8	25.9	70.3	50.4	19.9	69.5	46.9	22.6
子どもがいつもお手伝いをする家事がある	62.4	62.4	0.0	61.2	61.5	−0.3	61.1	63.1	−2.0	62.1	60.3	1.8
テレビゲームで遊ぶ時間は限定している	68.1	51.6	16.5	67.3	52.6	14.7	68.9	51.5	17.4	67.8	53.8	14.0
学校へ持っていくものを前日か朝に確かめさせる(注)	42.9	37.1	5.8	42.4	35.5	6.9	41.4	35.4	6.0	42.8	36.7	6.1
子どもが決まった時間に起きるようにしている(注)	71.0	61.5	9.5	70.9	61.5	9.4	69.4	63.0	6.4	70.1	61.4	8.7
ふだん（月曜日から金曜日）夕食を一緒に食べる（注）	74.5	72.7	1.8	74.2	71.7	2.5	72.9	72.7	0.2	73.4	72.2	1.2
家で子どもと食事をするときはテレビを見ない	33.3	22.0	11.3	33.9	22.9	11.0	31.9	23.5	8.4	32.5	23.7	8.8
親が言わなくても子どもは自分から勉強している	78.4	53.6	24.8	78.6	52.5	26.1	77.1	56.4	20.7	77.1	54.6	22.5
身の回りのことは子ども一人でできている	86.5	77.1	9.4	86.8	75.5	11.3	84.9	79.7	5.2	85.9	77.3	8.6
子どもが英語や外国の文化に触れるよう意識している	66.3	43.0	23.3	66.3	43.2	23.1	67.8	44.4	23.4	65.6	45.5	20.1
子どもにいろいろな体験の機会をつくるよう意識している	89.7	80.8	8.9	89.6	81.5	8.1	89.5	80.7	8.8	89.3	80.6	8.7
以前のように、土曜日も学校で授業をしてほしい	62.9	71.9	−9.0	62.2	74.2	−12.0	62.0	71.5	−9.5	61.5	70.7	−9.2

（注）「とてもあてはまる」のみ

算数はどうであろうか。算数 A において A 層と D 層との差が最も大きいのは、「子どもが英語や外国の文化に触れるよう意識している」（23.4 ポイント差）であり、次いで「親が言わなくても子どもは自分から勉強している」（20.7 ポイント差）、「家には、本（マンガや雑誌を除く）がたくさんある」（19.9 ポイント差）、「テレビゲームで遊ぶ時間は限定している」（17.4 ポイント差）の順になっている。また、算数 B においては、もっとも差が大きいのは「家には、本（マンガや雑誌を除く）がたくさんある」（22.6 ポイント差）であり、次いで「親が言わなくても子どもは自分から勉強している」（22.5 ポイント差）、「子どもが英語や外国の文化に触れるよう意識している」（20.1 ポイント差）、「子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをした」（18.5 ポイント差）の順となっている。

このように、教科や問題によって多少順位の傾向の違いは見られるものの、表７からみて、以下の項目は概ね高学力層ほど「あてはまる」という回答が多くなっている：「子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをした」「博物館や美術館に連れて行く」「毎日子どもに朝食を食べさせている」「子どもを決まった時間に寝かすようにしている」「ニュースや新聞記事について子どもと話す」「家には、本（マンガや雑誌を除く）がたくさんある」「テレビゲームで遊ぶ時間は限定している」「学校へ持っていく

ものを前日か朝に確かめさせる」「子どもが決まった時間に起きるようにしている」「家で子どもと食事をするときはテレビを見ない」「親が言わなくても子どもは自分から勉強している」「身の回りのことは子ども一人でできている」「子どもが英語や外国の文化に触れるよう意識している」「子どもにいろいろな体験の機会をつくるよう意識している」。また、全体的に、算数よりも国語の方がポイント差の大きい項目が多く、ここで示したような項目は国語の学力差との関係がより強いものが多いといえる。

一方、低学力層（D 層）ほど「あてはまる」という回答が多い項目としては「ほとんど毎日、子どもに『勉強しなさい』という」（国語のみ）、「以前のように、土曜日も学校で授業をしてほしい」などがあげられる。また、以下の項目は、学力との関係はあまり見られない：「子どもの勉強をみて教えている」「子どもがいつもお手伝いをする家事がある」「ふだん（月曜日から金曜日）夕食を一緒に食べる」。

（4）保護者の普段の行動と子どもの学力との関係

次に、保護者自身の普段の行動と子どもの学力との関係を見てみよう（表８）。ここでも、表７と同じように、A 層と D 層で保護者の回答傾向を比較するという手法をとった。

表8　親の普段の行動と子どもの学力との関係

「よくする」と「ときどきする」の合計（%）	国語A			国語B			算数A			算数B		
	A層	D層	差（A−D）	A層	D層	差（A−D）	A層	D層	差（A−D）	A層	D層	差（A−D）
本（雑誌や漫画を除く）を読む	74.5	58.9	15.6	73.3	59.3	14.0	73.2	60.7	12.5	72.1	61.2	10.9
携帯電話でゲームをする	7.4	12.4	−5.0	8.1	10.4	−2.3	6.8	11.1	−4.3	7.7	10.8	−3.1
テレビのニュース番組を見る（注）	74.5	69.2	5.3	73.7	70.0	3.7	73.6	70.4	3.2	73.2	70.3	2.9
テレビのワイドショーやバラエティ番組を見る（注）	31.0	38.7	−7.7	30.9	38.5	−7.6	30.7	39.8	−9.1	31.8	38.2	−6.4
新聞の政治経済の欄を読む	69.2	54.1	15.1	67.3	55.2	12.1	68.9	55.0	13.9	67.3	55.2	12.1
スポーツ新聞や女性週刊誌を読む	15.0	27.0	−12.0	16.8	25.1	−8.3	16.9	25.5	−8.6	16.5	25.3	−8.8
パチンコ・競馬・競輪に行く	2.0	6.3	−4.3	2.2	6.3	−4.1	2.3	6.8	−4.5	2.2	6.7	−4.5
家で手作りのお菓子をつくる	54.9	46.1	8.8	55.6	44.3	11.3	54.8	46.4	8.4	55.0	46.1	8.9
クラシック音楽のコンサートへ行く	20.0	9.0	11.0	20.3	7.7	12.6	19.7	9.2	10.5	18.8	9.8	9.0
美術館や美術の展覧会へ行く	34.2	18.6	15.6	33.3	18.3	15.0	32.9	18.5	14.4	33.9	18.1	15.8
カラオケに行く	15.7	20.7	−5.0	17.3	21.3	−4.0	15.0	22.4	−7.4	16.4	22.0	−5.6
政治経済や社会問題に関する情報をインターネットでチェックする	39.9	29.9	10.0	40.1	30.7	9.4	40.0	29.9	10.1	40.0	30.2	9.8
パソコンでメールをする	38.7	23.5	15.2	37.6	25.0	12.6	39.5	24.3	15.2	38.0	26.0	12.0
学校での行事に参加（「ひんぱんにした」の割合）	76.8	67.2	9.6	76.1	67.5	8.6	76.6	66.8	9.8	77.0	66.1	10.9

（注）「よくする」のみ

国語 A において A 層と D 層との差が最も大きいのは「本（雑誌や漫画を除く）を読む」と「美術館や美術の展覧会へ行く」（いずれも 15.6 ポイント差）であり、次いで、「パソコンでメールをする」（15.2 ポイント差）、「新聞の政治経済の欄を読む」（15.1 ポイント差）の順となっている。国語 B においては、差の大きい順に「美術館や美術の展覧会へ行く」、「本（雑誌や漫画を除く）を読む」、「パソコンでメールをする」、「クラシック音楽のコンサートへ行く」となっている。

算数はどうであろうか。算数 A で A 層と D 層との差が最も大きいのは「パソコンでメールをする」（15.2 ポイント差）、次いで、「美術館や美術の展覧会へ行く」（14.4 ポイント差）、「新聞の政治経済の欄を読む」（13.9 ポイント差）、「本（雑誌や漫画を除く）を読む」（12.5 ポイント差）の順となっている。また、算数 B においては、差の大きい順に「美術館や美術の展覧会へ行く」、「新聞の政治経済の欄を読む」、「パソコンでメールをする」、「本（雑誌や漫画を除く）を読む」、となっている。

このように、教科や問題によって多少順位の傾向の違いは見られるものの、表８からみて、以下の項目は概ね高学力層の保護者ほど「する」という回答が多くなっている：「本（雑誌や漫画を除く）を読む」「新聞の政治経済の欄を読む」「テレビのニュース番組をよく見る」「家で手作りのお菓子をつく

る」「クラシック音楽のコンサートへ行く」「美術館や美術の展覧会へ行く」「政治経済や社会問題に関する情報をインターネットでチェックする」「学校での行事によく参加する」「パソコンでメールをする」。これらの保護者の行動は、家庭が持っている文化をあらわすと考えられる。家庭の文化が学校文化により近いほど、子どもの学力も高いという傾向が読み取れる。

テレビや娯楽、ギャンブルなどといった保護者の行動は、学力とは負の相関が見られる。たとえば、以下の項目は、低学力層（D 層）ほど高いという傾向がある：「携帯電話でゲームをする」「テレビのワイドショーやバラエティ番組をよく見る」「スポーツ新聞や女性週刊誌を読む」「パチンコ・競馬・競輪に行く」「カラオケに行く」。

（5）家庭環境と学力との関係についての総合分析

ここまで、子どもの学力と関係のある変数について分析を進めてきたが、いうまでもなく、子どもの学力は単一の要因のみに規定されているわけではなく、複数の要因が絡み合って子どもの学力を規定している。そこで、ここでは、重回帰分析により要因間の相対的重要性について検討したい。また、保護者の接し方や行動と学力との関係は、世帯年収を統制するとどうなるかにも検討を加える。

これまで、表７や表８において、保護者の子どもへの接し方や普段の行動、教育意識などが子どもの学力との間に相関があることを示してきた。しかしながら、これらの相関関係はそれ以外の変数の影響を統制しつつ、慎重に検討する必要がある。そこで、ここでは、世帯年収を統制した上で、保護者の子どもへの接し方や意識・行動と学力との関係を見ていきたい。独立変数は、保護者の接し方や行動に関する項目から、学力との関係が強いものを選び、また、多重共線性にも配慮して図２にあるような変数を選択した。家庭背景としては、世帯年収を投入した。投入した変数の記述統計量は表９の通りである。

図２　家庭背景・保護者の意識や行動と学力（重回帰分析で用いた変数）

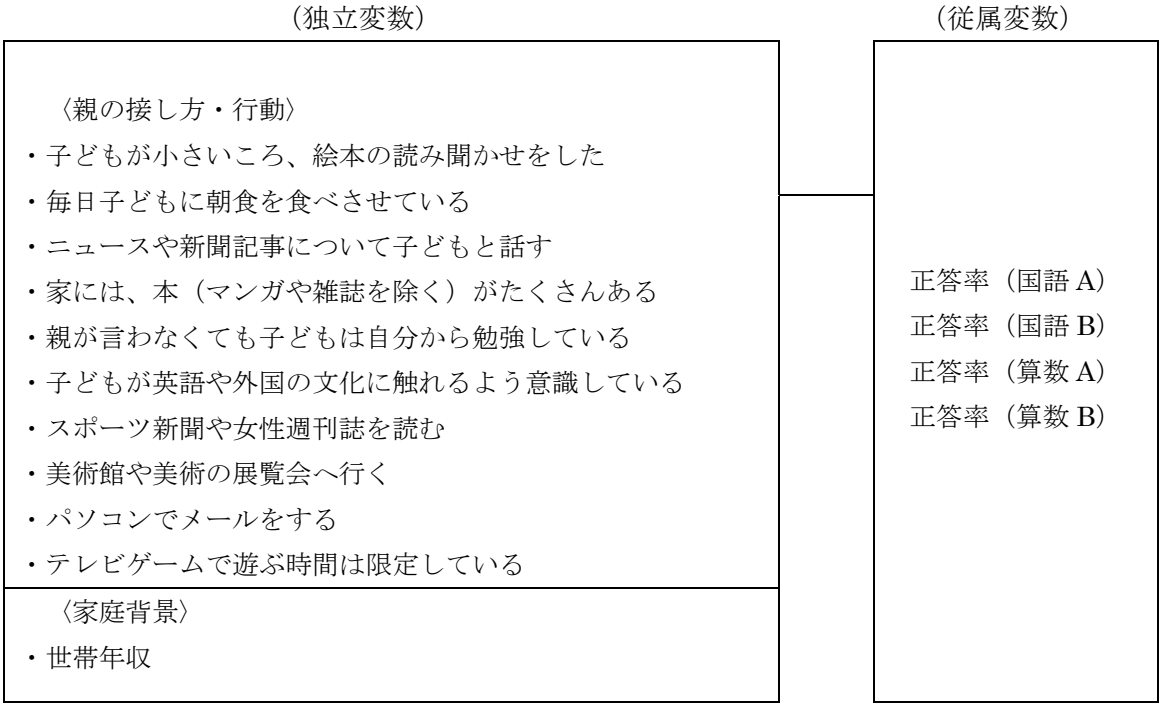


表9 回帰分析に用いた変数の記述統計量

		最小値	最大値	平均値	標準偏差	N
子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをした	1.まったくあてはまらない－4.とてもあてはまる	1	4	3.03	0.79	5835
毎日子どもに朝食を食べさせている	1.まったくあてはまらない－4.とてもあてはまる	1	4	3.85	0.43	5824
ニュースや新聞記事について子どもと話す	1.まったくあてはまらない－4.とてもあてはまる	1	4	2.94	0.72	5828
親が言わなくても子どもは自分から勉強している	1.まったくあてはまらない－4.とてもあてはまる	1	4	2.90	0.85	5836
スポーツ新聞や女性週刊誌を読む	1.まったくしない－4.よくする	1	4	1.81	0.83	5822
パソコンでメールをする	1.まったくしない－4.よくする	1	4	1.99	1.12	5821
子どもが英語や外国の文化にふれるよう意識している	1.まったく思わない－4.とてもそう思う	1	4	2.68	0.80	5805
家には本（マンガや雑誌を除く）がたくさんある	1.まったくあてはまらない－4.とてもあてはまる	1	4	2.82	0.83	5838
美術館や美術の展覧会へ行く	1.まったくしない－4.よくする	1	4	1.90	0.89	5819
テレビゲームで遊ぶ時間は限定している	1.まったくあてはまらない－5.もってない	1	5	2.92	1.02	5824
世帯年収	1.[200万未満]－12.[1500万以上]	1	12	6.57	3.00	5322

表10 正答率（国語A）の規定要因

	標準化係数	有意確率		標準化係数	有意確率	
	β			β		
子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをした	0.080	0.000	***	0.077	0.000	***
毎日子どもに朝食を食べさせている	0.046	0.000	***	0.039	0.003	**
ニュースや新聞記事について子どもと話す	0.047	0.001	**	0.050	0.000	***
親が言わなくても子どもは自分から勉強している	0.155	0.000	***	0.162	0.000	***
スポーツ新聞や女性週刊誌を読む	−0.069	0.000	***	−0.059	0.000	***
パソコンでメールをする	0.065	0.000	***	0.045	0.001	**
子どもが英語や外国の文化にふれるよう意識している	0.088	0.000	***	0.061	0.000	***
家には本（マンガや雑誌を除く）がたくさんある	0.101	0.000	***	0.084	0.000	***
美術館や美術の展覧会へ行く	0.019	0.179		−0.001	0.948	
テレビゲームで遊ぶ時間は限定している	0.052	0.000	***	0.034	0.010	*
世帯年収				0.184	0.000	***
R2乗	0.127			0.159		
調整済みR2乗	0.126			0.157		

*** p<.001, ** p<.01, * p<.05

表11 正答率（国語B）の規定要因

	標準化係数	有意確率		標準化係数	有意確率	
	β			β		
子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをした	0.079	0.000	***	0.074	0.000	***
毎日子どもに朝食を食べさせている	0.040	0.002	**	0.033	0.012	*
ニュースや新聞記事について子どもと話す	0.047	0.001	**	0.046	0.001	**
親が言わなくても子どもは自分から勉強している	0.168	0.000	***	0.176	0.000	***
スポーツ新聞や女性週刊誌を読む	−0.052	0.000	***	−0.045	0.001	**
パソコンでメールをする	0.050	0.000	***	0.033	0.013	*
子どもが英語や外国の文化にふれるよう意識している	0.077	0.000	***	0.054	0.000	**
家には本（マンガや雑誌を除く）がたくさんある	0.087	0.000	***	0.075	0.000	***
美術館や美術の展覧会へ行く	0.033	0.017	*	0.016	0.261	
テレビゲームで遊ぶ時間は限定している	0.040	0.002	**	0.023	0.086	
世帯年収				0.167	0.000	***
R2乗	0.116			0.143		
調整済みR2乗	0.114			0.142		

*** p<.001, ** p<.01, * p<.05

重回帰分析の結果は表 10～13 の通りである。国語 A（表 10）については、「保護者の接し方・行動」変数だけを独立変数とした場合は「美術館や美術の展覧会へ行く」以外は有意な関係がある。世帯年収を統制すると標準偏回帰係数（β）の絶対値は少し小さくなる変数が多いが、「美術館や美術の展覧会へ行く」を除けば有意な関係が見られる。一方、国語 B（表 11）については、「保護者の接し

方・行動」変数だけだとすべて学力と有意な関係がある。しかし、世帯年収を統制すると「美術館や美術の展覧会へ行く」「テレビゲームで遊ぶ時間は限定している」は学力と有意な関係はなくなる。標準偏回帰係数（β）の絶対値は小さくなるものが多いが、さほど大きな減少はない。

表12　正答率（算数A）の規定要因

	標準化係数	有意確率		標準化係数	有意確率	
	β			β		
子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをした	0.037	0.008	**	0.034	0.018	*
毎日子どもに朝食を食べさせている	0.072	0.000	***	0.063	0.000	***
ニュースや新聞記事について子どもと話す	0.035	0.012	*	0.031	0.026	*
親が言わなくても子どもは自分から勉強している	0.128	0.000	***	0.136	0.000	***
スポーツ新聞や女性週刊誌を読む	−0.055	0.000	***	−0.042	0.001	**
パソコンでメールをする	0.054	0.000	***	0.031	0.021	*
子どもが英語や外国の文化にふれるよう意識している	0.095	0.000	***	0.060	0.000	***
家には本（マンガや雑誌を除く）がたくさんある	0.053	0.000	***	0.041	0.005	**
美術館や美術の展覧会へ行く	0.038	0.007	**	0.011	0.456	
テレビゲームで遊ぶ時間は限定している	0.046	0.001	**	0.026	0.059	
世帯年収				0.219	0.000	***
R2乗	0.088			0.131		
調整済みR2乗	0.086			0.130		

*** p<.001，** p<.01，* p<.05

表13　正答率（算数B）の規定要因

	標準化係数	有意確率		標準化係数	有意確率	
	β			β		
子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをした	0.068	0.000	***	0.068	0.000	***
毎日子どもに朝食を食べさせている	0.061	0.000	***	0.051	0.000	***
ニュースや新聞記事について子どもと話す	0.045	0.001	**	0.047	0.001	**
親が言わなくても子どもは自分から勉強している	0.133	0.000	***	0.139	0.000	***
スポーツ新聞や女性週刊誌を読む	−0.058	0.000	***	−0.046	0.000	***
パソコンでメールをする	0.062	0.000	***	0.044	0.001	**
子どもが英語や外国の文化にふれるよう意識している	0.082	0.000	***	0.056	0.000	***
家には本（マンガや雑誌を除く）がたくさんある	0.071	0.000	***	0.055	0.000	***
美術館や美術の展覧会へ行く	0.042	0.003	**	−0.016	0.262	
テレビゲームで遊ぶ時間は限定している	0.033	0.013	*	0.012	0.379	
世帯年収				0.201	0.000	***
R2乗	0.102			0.140		
調整済みR2乗	0.100			0.139		

*** p<.001，** p<.01，* p<.05

次に、算数についてみてみよう。算数A（表12）、算数B（表13）については、「保護者の接し方・行動」変数だけだとすべて学力と有意な関係がある。しかし、世帯年収を統制すると「美術館や美術の展覧会へ行く」「テレビゲームで遊ぶ時間は限定している」といった変数は有意ではなくなる。

これらの重回帰分析（表10～13）からは、世帯年収を統制するとほとんどの変数で標準偏回帰係数（β）の絶対値は小さくなるということがわかる。しかし、「親が言わなくても子どもは自分から勉強する」については、統制後の方が絶対値が大きくなっている。これは重要な知見である。世帯年収を統制しても、「親が言わなくても子どもは自分から勉強する」家庭では子どもの学力は高いのである。これは、「親が言わなくても子どもは自分から勉強する」ようになるまで勉強の習慣を強化することの重要性を示唆しているといえよう。

一方、世帯年収を統制した結果、有意ではなくなった項目、例えば国語A以外での「テレビゲーム

で遊ぶ時間は限定している」「美術館や美術の展覧会へ行く」などはどのように解釈したらいいのだろうか。これらの項目は、世帯年収を媒介に学力との相関が見られたものと思われる。世帯年収を統制すると有意な関係がなくなるということは、これらの項目が単独で学力を規定する力はきわめて限定的であるということを意味している。

算数 A では「毎日子どもに朝食を食べさせている」が「家には本がたくさんある」「子どもが小さい頃、絵本の読み聞かせをした」といった文字環境変数よりも β 値が高い。それに対し、算数 B では、これらの文字環境変数の方が「毎日子どもに朝食を食べさせている」を上回っている。これは算数 A と B を比べると、B 問題のほうが文章題なども多く、読解力も必要とするからではないかと解釈できる。

世帯年収を統制しても係数の値があまり変わらずに関係が有意に残る項目（例：「子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをした」、「ニュースや新聞記事について子どもと話す」、「家には本がたくさんある」など）は、家庭の経済環境による学力差の問題に対して示唆するところが大きいと思われる。世帯年収を考慮に入れても学力との関係が強く残るこれらの項目は、家庭の経済環境による学力差を緩和する鍵を握っているといえよう。ここでの結果は、子どもがまだ小さい頃から（幼児期から）絵本の読み聞かせをしたり、家族の会話の中にニュースや新聞記事の内容が話される、家の中に本がたくさんあるなど、学校での学習になじみやすい家庭環境をつくることが重要であることを示唆している。

ここでの重回帰分析は決定係数が低く、いずれのモデルもわずかしか学力の分散を説明できていないという点にも注目しておく必要があろう（決定係数が最大の国語 A でも 16%程度しか説明できていない）。これは、ここで投入された変数以外の「何か」が子どもの学力の大部分を規定していることを意味する。その「何か」に働きかけることによって家庭環境による学力差の克服に結びつくという可能性を示唆するものといえよう。むろん、それが何であるかは今後解明せねばならない課題であるが、ここでの分析から見る限り、世帯年収のみに学力が規定される割合はさほど大きくはないのかもしれない。

（6）子どもの家庭でのテレビ視聴時間と学力との関係

保護者の子どもへの接し方としては先にテレビゲームの時間を制限しているかどうかを検討したが、テレビについてはどうだろうか。表 14 は、子どもの平日のテレビ視聴時間と正答率との関係を見たものである。いずれの教科においてもテレビ視聴時間が少なくなればなるほど正答率が高くなっている。「(テレビを見る時間が）1 時間より少ない」と「4 時間以上」との差はおよそ 10 ポイントにも上る。

（7）保護者の意識・行動と子どもの意識・行動・学力

これまで、「保護者の行動」と「子どもの学力」を関連づけて論じてきた。もしこれが「保護者の行動」→「子どもの学力」という影響関係であるとすれば、それはどのようなメカニズムで生じるのかが解明される必要がある。当然、そのようなメカニズムの解明は、アンケート調査の分析では限界があるが、ここでは、保護者の行動が子どもの意識と関係していることを示しておきたい。

表 15 は、保護者の普段の行動（本を読む） と 子どもの読書に対する意識の関係を、表 16 は、保護者の普段の行動（新聞の政治経済欄を読む）と子どもの新聞やテレビのニュースに対する関心の関係を、そして表 17 は、保護者の態度（子どもにいろいろな体験の機会を作るよう意識している）と子どもの「総合的な学習の時間」に対する意識の関係を見たものである。

表14　平日のテレビ等（ビデオ、DVD含む）視聴時間と学力の関係

		正答率_国語A	正答率_国語B	正答率_算数A	正答率_算数B
4時間以上	平均値	65.4	51.1	71.8	51.7
	度数	1216	1216	1216	1216
3時間以上，4時間より少ない	平均値	68.4	55.2	74.5	54.8
	度数	1123	1123	1123	1123
2時間以上，3時間より少ない	平均値	71.1	56.4	76.5	57.8
	度数	1308	1308	1308	1308
1時間以上，2時間より少ない	平均値	73.0	59.0	77.9	59.1
	度数	1154	1154	1154	1154
1時間より少ない	平均値	75.5	61.3	80.2	61.7
	度数	648	648	648	648
全く見たり，聞いたりしない	平均値	75.9	60.7	79.5	61.1
	度数	133	133	133	133
その他	平均値	77.8	33.3	73.7	30.8
	度数	1	1	1	1
欠票	平均値	9.095	6.56375	9.34	5.28875
	度数	80	80	80	80
合計	平均値	69.5	55.5	74.9	55.9
	度数	5663	5663	5663	5663
[4時間以上]と[1時間より少ない]の差		10.1	10.1	8.4	10.0

表15　親の普段の行動（本を読む）と 子どもの読書に対する意識の関係

			（子どもが）読書が好き				
			当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計
（親が）本を読む	よくする	度数	860	347	183	133	1523
		%	56.5	22.8	12.0	8.7	100.0
	時々する	度数	1173	603	421	207	2404
		%	48.8	25.1	17.5	8.6	100.0
	あまりしない	度数	609	385	261	182	1437
		%	42.4	26.8	18.2	12.7	100.0
	まったくしない	度数	119	95	82	65	361
		%	33.0	26.3	22.7	18.0	100.0
合計		度数	2761	1430	947	587	5725
		%	48.2	25.0	16.5	10.3	100.0

表16　親の普段の行動（新聞の政治経済欄を読む）と子どもの新聞やテレビのニュースに対する関心

			（子どもが）新聞やテレビのニュースなどに関心がある				
			当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計
（親が）新聞の政治経済欄を読む	よくする	度数	458	473	223	63	1217
		%	37.6	38.9	18.3	5.2	100.0
	時々する	度数	728	949	490	173	2340
		%	31.1	40.6	20.9	7.4	100.0
	あまりしない	度数	386	665	378	116	1545
		%	25.0	43.0	24.5	7.5	100.0
	まったくしない	度数	154	237	181	60	632
		%	24.4	37.5	28.6	9.5	100.0
合計		度数	1726	2324	1272	412	5734
		%	30.1	40.5	22.2	7.2	100.0

表17　親の態度（子どもにいろいろな体験の機会を作るよう意識している）と子どもの「総合的な学習の時間」に対する意識

			（子どもが）「総合的な学習の時間」の勉強は好き				
			当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計
（親が）子どもに色々な体験の機会をつくるよう意識している	とてもそう思う	度数	665	617	288	97	1667
		%	39.9	37.0	17.3	5.8	100.0
	まあそう思う	度数	1046	1349	649	200	3244
		%	32.2	41.6	20.0	6.2	100.0
	あまりそう思わない	度数	215	318	145	65	743
		%	28.9	42.8	19.5	8.7	100.0
	まったくそう思わな	度数	20	29	11	7	67
		%	29.9	43.3	16.4	10.4	100.0
合計		度数	1946	2313	1093	369	5721
		%	34.0	40.4	19.1	6.4	100.0

保護者が本をよく読む家庭ほど子どもは読書が好きな傾向にあり、また、保護者がふだん新聞の政治経済欄を読む家庭ほど、子どもが新聞やテレビのニュースに関心を持つ傾向があるのがわかる。また、保護者が子どもにいろいろな体験の機会を作るよう意識している家庭の子どもほど、「総合的な学習の時間」が好きと回答する傾向も見られる。このように、家庭での保護者の行動や子どもへの教育意識が、子どもたちの学習に対する構えや志向性と関係している。これは、保護者の行動や意識と子どもの学力との関係のメカニズムを捉える一つの視点となるであろう。最後に、ここで見た子どもの意識が学力とどう関係しているかを表 18 に示しておく。読書が好きな子どもほど、また、新聞やテレビのニュースに関心を持つ子どもほど、学力が高いことが見て取れる。また、「総合的な学習の時間」が好きな子どもほど高学力であることも明確な傾向として見て取れる。

表18 「読書」「ニュース」「総合的な学習の時間」に対する子どもの態度と学力との関係

			正答率_国語A	正答率_国語B	正答率_算数A	正答率_算数B
読書は好きですか	当てはまる	平均値	75.1	61.8	77.9	59.9
		度数	2776	2776	2776	2776
	どちらかといえば，当てはまる	平均値	68.3	54.1	75.3	54.9
		度数	1438	1438	1438	1438
	どちらかといえば，当てはまらない	平均値	65.6	51.3	73.6	53.7
		度数	949	949	949	949
	当てはまらない	平均値	60.7	43.3	71.0	49.4
		度数	590	590	590	590
新聞やテレビのニュースなどに関心はありますか	当てはまる	平均値	75.2	61.8	79.0	61.2
		度数	1731	1731	1731	1731
	どちらかといえば，当てはまる	平均値	71.0	57.2	76.4	57.2
		度数	2336	2336	2336	2336
	どちらかといえば，当てはまらない	平均値	66.2	52.1	73.1	52.6
		度数	1283	1283	1283	1283
	当てはまらない	平均値	58.0	40.1	67.2	45.1
		度数	414	414	414	414
「総合的な学習の時間」は好きですか	当てはまる	平均値	73.7	59.4	77.5	58.8
		度数	1958	1958	1958	1958
	どちらかといえば，当てはまる	平均値	70.6	57.6	76.4	57.1
		度数	2328	2328	2328	2328
	どちらかといえば，当てはまらない	平均値	66.7	51.8	73.9	54.2
		度数	1101	1101	1101	1101
	当てはまらない	平均値	61.0	43.9	69.1	48.0
		度数	373	373	373	373

３．分析結果のまとめ

（１）世帯年収の高い家庭ほど子どもは高学力である

家庭の経済力と子どもの学力の間には関係がある。これまでは就学援助率の高い学校で正答率が低いなど、学校単位で分析されてきたが、今回は保護者調査から得られたデータをもとに、個票レベルで経済力と学力との関係が確認できた。

（２）学校外教育支出の多い家庭ほど子どもの学力は高い。そして、学校外教育支出は家庭の経済力と強い関係がある

（３）保護者の子どもへの接し方や教育意識は子どもの学力と関係している

高学力層ほど「あてはまる」という回答が多かった項目：「子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをした」「博物館や美術館に連れて行く」「毎日子どもに朝食を食べさせている」「子どもを決まった時間に寝かすようにしている」「ニュースや新聞記事について子どもと話す」「家には、本（マンガや雑誌を除く）がたくさんある」「テレビゲームで遊ぶ時間は限定している」「学校へ持っていくものを前日か朝に確かめさせる」「子どもが決まった時間に起きるようにしている」「家で子どもと食事をするときはテレビを見ない」「親が言わなくても子どもは自分から勉強している」「身の回りのことは子ども一人でできている」「子どもが英語や外国の文化に触れるよう意識している」「子どもにいろいろな体験の機会をつくるよう意識している」。

（４）保護者の普段の行動もまた子どもの学力と関係している

高学力層の保護者ほど「（よく）する」傾向がある項目：「本（雑誌や漫画を除く）を読む」「新聞の政治経済の欄を読む」「テレビのニュース番組をよく見る」「家で手作りのお菓子をつくる」「クラシック音楽のコンサートへ行く」「美術館や美術の展覧会へ行く」「政治経済や社会問題に関する情報をインターネットでチェックする」「学校での行事によく参加する」「パソコンでメールをする」。　これらの保護者の行動は、家庭が持っている文化をあらわすと考えられる。家庭の文化が学校文化により近いほど、子どもの学力も高いという傾向が読み取れる。

（５）世帯年収を考慮しても、保護者の行動と学力との関係は残る

具体的には、「親が言わなくても子どもは自分から勉強する」「ニュースや新聞記事について子どもと話す」「子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをした」「家には本がたくさんある」などが世帯年収を統制しても学力との関係の強さはさほど変わらず、保護者の子どもへの接し方と学力との有意な関係が残る項目である。

「親が言わなくても子どもは自分から勉強する」ようになるまで勉強の習慣を強化すること、子どもが小さい頃から（幼児期から）絵本の読み聞かせをしたり、家族の会話の中にニュースや新聞記事の内容が話される、家の中に本がたくさんあるなど、学校での学習との接続がはかられやすい家庭環境をつくることが重要であることを示唆している。

（６）子どものテレビ視聴時間が少なくなればなるほど正答率は高い

（７）保護者の意識や行動は、子どもの学習への「かまえ」と関係がある

本をよく読む保護者の子どもは読書好きであり、新聞で政治経済欄を読む保護者の子どもはニュースに対する関心が高い。また、子どもに様々な体験をさせている保護者の子どもは「総合的な学習の時間」が好きである。ここでみられる学習への「かまえ」は、学力とも関係している。

不利な環境にある子どもの学力の底上げに成功している学校の特徴（案）

—「効果のある学校」研究手法による分析—

志水宏吉（大阪大学）・藤井宣彰（国立教育政策研究所）

１．目的

日本社会における貧困と子どもたちの学力差への問題意識を背景に、近年の教育社会学においては、家庭環境に関わらず子どもたちの基礎学力の底上げに成功している「効果のある学校」についての研究が蓄積されつつある（鍋島 2003；志水 2005；志水 2009a；志水 2009b）。

ここで言う「効果のある学校」とは、各学校の「平均点」の高さを直接に問題とするものではない。「効果のある学校」が大切だと考えているのは、すべての子どもたち、とりわけ家計の収入が少ないなどの不利な家庭環境にある子どもたちの基礎学力を下支えすることである。そうした観点から、「効果のある学校」のイメージは、「平均点」よりもむしろ「通過率」の考え方を重視してきた。すなわち、「効果のある学校」のイメージは、5 段階評定で「4 や 5 をとる子が多い学校」というよりも、「1 や 2 をとる子が少ない学校」に近い。

本稿の目的は、志水宏吉（2009a）で行った分析を受け継ぐ形で、今回のデータに対して「効果のある学校」研究の枠組みを適用し、「効果のある学校」の判定を行ったうえで、その特徴を全国学力・学習状況調査の学校質問紙および児童質問紙、委託調査研究で行った教師質問紙の項目とのクロス集計から明らかにすることである。

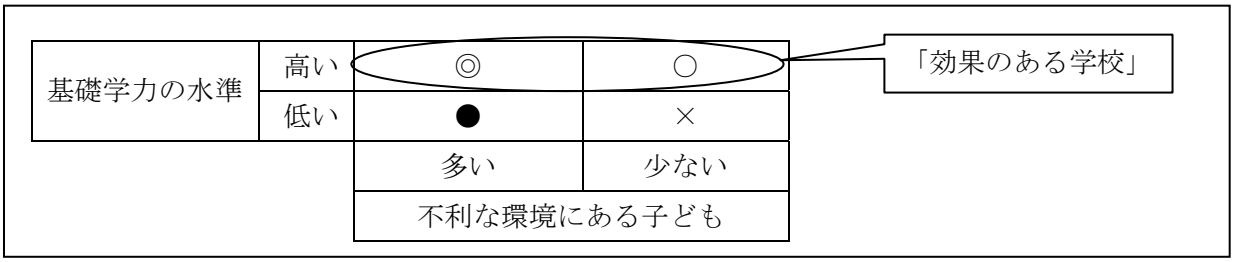
なお従来の研究では、学校が置かれた社会経済的環境が、その学校が「効果のある学校」であるかどうかにかなりの影響を及ぼすことがわかっている（志水 2009b）。そこで本稿では、家計の収入が少ないなどの家庭環境にある子どもの多さという要因を織り込んだ分析も試みる。

次の図 1 は、「効果のある学校」のタイプをイメージしてみたものである。これを参照しながら、本稿の構成について述べておきたい。

まず、2 節では、対象校から「効果のある学校」（◎+○の部分）を選定する作業を行う。その際に用いるのが、「個人を単位とする分析手法」と「学校を単位とする分析手法」の 2 つである。本稿では、2 つの基準の両方を満たす学校を「効果のある学校」と判定した。

続く 3 節では、「効果のある学校」の特徴を、学校質問紙調査の項目を用いて、「効果のある学校」とその他の学校（●+×の部分）との対比から明らかにする。4 節では、「効果のある学校」の特徴を、6 年生を担任する教師に対する質問紙調査の項目を用いて、「効果のある学校」とその他の学校（●+×の部分）との対比から明らかにする。さらに 5 節では、家計の収入が少ないなどの家庭環境にある子どもが比較的多いと考えられる学校に対象をしぼって（◎と●）、その比較を試みる。具体的には児童質問紙の項目を用いてクロス集計を行うことで、不利な環境にある子どもが多いながらも、そのような子どもの学力の底上げができている小学校に通う子どもたちの学校生活の特徴についての検討を行う。

図１　「効果のある学校」のイメージ



２.「効果のある学校」の判定

本報告では、志水（2009a）で用いられている 1）児童個人を単位とした分析手法と、2）全国学力・学習状況調査の就学援助率に関する学校質問紙項目を利用した学校を単位とした分析手法の２種類で判定された学校を「効果のある学校」とした。順に解説していこう。

１）児童個人を単位とした分析手法

これは、これまで一般にとられてきた方法で、児童生徒あるいは保護者に対する質問紙調査の結果にもとづいて、「効果のある学校」を導き出そうとするものである。例えば、日本における「効果のある学校」研究の先駆けと言える鍋島（2003）では、児童生徒に対する質問紙調査の結果から、子どもたちをいくつかのグループに分け、「効果のある学校」の判定を行っている。また、本報告がモデルとしている志水（2009a）では、保護者に対する質問紙調査項目にもとづいて児童をグループに分け、同様の分析を行っている。本報告でもこの方法を踏襲し、保護者質問紙に含まれる家計の収入などの指標をもとに児童をグループに分ける方法を採用する。本手法は、これらの指標からすれば、学力が低くなる傾向が指摘され得る子どもたちに、一定の学力水準を保っている学校を取り出そうとするものである。

志水（2009a）においては、次のような手順で「効果のある学校」を導き出している。

① ある学力テストについて、平均点よりやや低いラインの「基準点」を設定する。
② 子どもたちを、何らかの属性や質問紙の回答によって、いくつかの集団にグルーピングする。
③ グループごとの、「基準点」に対する「通過率」を求める。
④ すべての集団カテゴリーについて、「通過率」がある水準を上回っている場合、その学校を「効果のある学校」と判定する。

この方法は、集団間の学力差が見られない特異な学校を探し出す「アウトライアーズ・アナリシス」と呼ばれるもので、「効果のある学校」研究をスタートさせた代表的研究者の一人であるアメリカのエドモンズの方法を踏襲したものである。彼は、「完全習得」の考え方に即して基準得点を設定し、その得点以上をとった者を「完全習得を達成した者」とし、その比率が対象校全体の平均値を下回っている学校を「効果のない学校」とした。さらに、この基準をクリアした学校の人種・階層別の通過率を集計し、黒人の通過率が白人のそれと同等以上、さらに低所得層の通過率が中・高所得率のそれと同等以上の学校を「効果のある学校」とした（鍋島 2003, 第２章）。この考え方は、不利な環境のもとにある子どもたちの学力水準を支えるという、「平等」や「社会的公正」の視点を重視したものであると言える。

今回の分析では、上の一般的手順を、以下のように具体化した。

①児童レベルの「基準点」設定

お茶の水女子大学の委託研究調査に同意した保護者の児童は、全国学力・学習状況調査において、国語 A・B、算数 A・B の正答率の合計で、平均 255.5（標準偏差 80.7）を取っていた。そこで、おおよそ 0.5 標準偏差低い 215 を各児童に対する「基準点」とした。この基準点は、おおよそ下位 28%の児童の学力水準である。基準点を平均点よりやや低いところに設定する理由は、それが「このぐらいの点数はすべての子どもに取ってほしい」という教師側の期待水準を表すものと考えるからである。

②保護者質問紙による児童の分類

先に述べたように、家計の収入などの指標を採用した。これらにもとづき、児童を複数のカテゴリーに分けた。

③学校レベルの「通過率」設定

調査対象校 100 校における通過率の平均が 70.9%、標準偏差 12.0 のため、おおよそ 0.5 標準偏差低く、きりのよい 65%を通過率として設定した。

④「効果のある学校」の判定

②のすべてのカテゴリーとも、通過率 65%以上の学校を、児童個人単位での方法で判定された「効果のある学校」とする。「効果のある学校」は調査対象となった 100 校中 27 校であった。

２）学校質問紙の就学援助率による学校を単位とした分析手法

就学援助率が高い学校は、例外も多いものの、学力水準が低い傾向がこれまでのさまざまな分析から見られる。そこで本報告でも、この就学援助率を学校が置かれた地域の社会経済的状況を示す指標として設定し、それを鍵に「効果のある学校」を判定した。本手法で判定される学校は、同程度の就学援助率の学校に比べて、学力の下支えができている学校である。

①児童レベルの「基準点」設定

「基準点」は、１）児童個人を単位とした分析手法と同様に、国語 A・B、算数 A・B の正答率合計 215 とする。

②学校レベルの「通過率」設定

就学援助率の区分ごとの平均通過率を求め、同じグループに属する学校の平均通過率を一定程度上回る学校（下記の「判定通過率」をクリアしている学校）を「効果のある学校」とする。この学校単位の分析方法によって「効果のある学校」と判定されたのは、調査対象となった 100 校中 35 校であった。

表１　就学援助率別の判定通過率

就学援助率	在籍していない	5%未満	5%以上、10%未満	10%以上、20%未満	20%以上、30%未満	30%以上、50%未満
学校数	2	16	28	31	15	8
平均通過率	82.8%	81.0%	70.1%	71.6%	65.4%	58.1%
標準偏差	8.0	7.9	13.4	10.2	8.3	10.1
判定通過率	85%	85%	75%	75%	70%	65%

表２　就学援助率別の「効果のある学校」判定結果（学校数）

就学援助率	在籍していない	5%未満	5%以上、10%未満	10%以上、20%未満	20%以上、30%未満	30%以上、50%未満	合計
効果のある学校	1	5	10	13	5	1	35
それ以外の学校	1	11	18	18	10	7	65
合計	2	16	28	31	15	8	100

３）「効果のある学校」の最終的な判定

１）保護者質問紙項目を用いた個人単位の方法と、２）学校質問紙の就学援助率を用いた学校単位の方法の２通りで「効果のある学校」を判定した結果を、クロス表の形で示したものが以下の表である。

本報告では、どちらの方法でも選ばれた、全体のちょうど２割にあたる20校を、「効果のある学校」とすることとした。今回の研究では、お茶の水女子大学の委託研究による調査データと、全国学力・学習状況調査のデータを接合して利用できるメリットがある。そのメリットを生かす分析手法が、上に展開したものである。

表３　２つの分析結果の比較（学校数）

		就学援助率利用		
		効果のある学校	それ以外の学校	合計
保護者質問紙項目利用	効果のある学校	20	7	27
	それ以外の学校	15	58	73
	合計	35	65	100

また、校区の社会経済的特徴が「効果のある学校」と認められるかどうかに密接に関連している可能性が強いことが、従来の研究成果から明らかになっている。そこで、ここでは「学校背景」変数を作成し、家計の収入が少ないなどの家庭の子どもが多い学校に着目した分析を本報告後半で行った。

「学校背景」変数は、家計の収入などに係る項目について学校ごとに集計された値を合計し、合計値が高い順に100校を３等分した変数である。「学校背景」上位校は34校、中位校は33校、下位校は33校である。

３.「効果のある学校」の特徴（１）: 学校質問紙を用いた分析

上記判定方法で導き出された「効果のある学校」がどのような特徴をもつ学校であるかを明らかにするために、まず、「効果のある学校」20校と、いずれの方法でも「効果のある学校」と認められなかった58校（「比較対象校」）を分析対象として、全国学力・学習状況調査の学校質問紙項目とのクロス集計を行った。分析にあたっては、ある選択肢に対する78校の回答が10校に満たない場合は、隣接する選択肢と合わせてクロス集計を行った。

結果

全国学力・学習状況調査の学校質問紙項目とのクロス集計の結果、「効果のある学校」に見られた特徴は表 4 のようなものである。カイ 2 乗検定の結果、10%水準で有意だった項目を以下に挙げる。

クロス集計の結果、全体の約 15%にあたる項目（85 項目中 13 項目）で 10%水準での有意差が見られた。13 項目の中身でいうと、「学習規律の徹底」「全国学力・学習状況調査の活用」「国語の指導法」「教員研修」などの領域の項目が注目されるところである。また最後に示した、「学校背景」の違いが「効果のある学校」の出現率に関連しているという結果は、これまでの研究結果を裏付けるものとなっている。

「効果のある学校」の中でも、家計の収入が少ないなどの子どもが多い中で「効果のある学校」と認められる学校の特徴を明らかにするためには、「学校背景」下位の学校に限定した分析を行う必要がある。しかし、「学校背景」下位の学校のうち、「効果のある学校」は 4 校であり、学校単位のクロス集計に耐えられない。「学校背景」下位にも関わらず「効果のある学校」となっている学校の、学校単位の特徴を明らかにすることは、今後の課題としたい。

表 4　全国学力・学習状況調査の学校質問紙項目とのクロス集計結果要約

領域	学校質問紙項目	選択肢	効果のある学校	比較対象校	差（効果のある学校-比較対象校）	p
児童の状況	(11)児童は，熱意をもって勉強していると思いますか	そのとおりだと思う	40.0%	15.5%	24.5%	*
指導方法・学習規律	(29)学習規律(私語をしない，話をしている人の方を向いて聞く，聞き手に向かって話をするなど)の維持を徹底していますか	よく行った	65.0%	41.4%	23.6%	+
	(31)学校や地域であいさつをするよう指導していますか	よく行った	90.0%	63.8%	26.2%	*
学力・学習状況の把握	(40)平成 19 年度全国学力・学習状況調査の結果を分析し，具体的な教育指導の改善に活用しましたか	はい	100.0%	84.5%	15.5%	+
	(42)平成 19 年度全国学力・学習状況調査の調査問題を授業の中で活用しましたか	はい	60.0%	32.8%	27.2%	*
個に応じた指導	(50)習熟度別の少人数による指導を行うにあたり，学習プリント等の教材として，主にどのようなものを用いましたか	習熟度に合わせて作成した教材	25.0%	3.4%	21.6%	*
国語科の指導方法	(54)国語の指導として，書く習慣を付ける授業を行いましたか	よく行った	50.0%	15.5%	34.5%	**
	(55)国語の指導として，様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	よく行った	40.0%	15.5%	24.5%	*
	(57)国語の授業では，教科担任制を実施していましたか	実施していた	15.0%	1.7%	13.3%	*
地域の人材・施設の活用	(69)ＰＴＡや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか	よく参加してくれる	60.0%	37.9%	22.1%	+
教員研修	(88)模擬授業や事例研究など，実践的な研修を行っていますか	よくしている	75.0%	46.6%	28.4%	*
	(91)授業研究を伴う校内研修を前年度，何回実施しましたか	年間 15 回以上	40.0%	24.1%	15.9%	+
「学校背景」	「学校背景」	上位	50.0%	22.4%	27.6%	*

※「p」はカイ二乗検定の有意確率。「**」：1%水準、「*」：5%水準、「+」：10%水準。以下同様。

表 5　全国学力・学習状況調査の学校質問紙項目とのクロス集計

児童の状況

(11)児童は，熱意をもって勉強していると思いますか

	そのとおりだと思う	どちらかといえば，そう思う +どちらかといえば，そう思わない	合計	n	p
比較対象校	15.5%	84.5%	100.0%	58	*
効果のある学校	40.0%	60.0%	100.0%	20	

指導方法・学習規律

(29)学習規律(私語をしない，話をしている人の方を向いて聞く，聞き手に向かって話をするなど)の維持を徹底していますか

	よく行った	どちらかといえば，行った+あまり行っていない	合計	n	p
比較対象校	41.4%	58.6%	100.0%	58	+
効果のある学校	65.0%	35.0%	100.0%	20	

(31)学校や地域であいさつをするよう指導していますか

	よく行った	どちらかといえば，行った+あまり行っていない	合計	n	p
比較対象校	63.8%	36.2%	100.0%	58	*
効果のある学校	90.0%	10.0%	100.0%	20	

学力・学習状況の把握

(40)平成 19 年度全国学力・学習状況調査の結果を分析し，具体的な教育指導の改善に活用しましたか

	はい	いいえ	合計	n	p
比較対象校	84.5%	15.5%	100.0%	58	+
効果のある学校	100.0%	0.0%	100.0%	20	

(42)平成 19 年度全国学力・学習状況調査の調査問題を授業の中で活用しましたか

	はい	いいえ	合計	n	p
比較対象校	32.8%	67.2%	100.0%	58	*
効果のある学校	60.0%	40.0%	100.0%	20	

個に応じた指導

(50)習熟度別の少人数による指導を行うにあたり，学習プリント等の教材として，主にどのようなものを用いましたか

	すべての学習集団で同一の教材	各学習集団の習熟度に合わせて既存の教材を組み合わせたもの	習熟度に合わせて作成した教材	習熟度別の少人数指導を行っていない	合計	n	p
比較対象校	12.1%	44.8%	3.4%	39.7%	100.0%	58	*
効果のある学校	5.0%	45.0%	25.0%	25.0%	100.0%	20	

国語科の指導方法

(54)国語の指導として，書く習慣を付ける授業を行いましたか

	よく行った	どちらかといえば，行った	あまり行っていない	合計	n	p
比較対象校	15.5%	70.7%	13.8%	100.0%	58	**
効果のある学校	50.0%	40.0%	10.0%	100.0%	20	

(55)国語の指導として，様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか

	よく行った	どちらかといえば，行った	あまり行っていない	合計	n	p
比較対象校	15.5%	67.2%	17.2%	100.0%	58	*
効果のある学校	40.0%	40.0%	20.0%	100.0%	20	

(57)国語の授業では，教科担任制を実施していましたか

	実施していた	実施していなかった	合計	n	p
比較対象校	1.7%	98.3%	100.0%	58	*
効果のある学校	15.0%	85.0%	100.0%	20	

地域の人材・施設の活用
(69)ＰＴＡや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか

	よく参加してくれる	参加してくれる+あまり参加してくれない	合計	n	p
比較対象校	37.9%	62.1%	100.0%	58	+
効果のある学校	60.0%	40.0%	100.0%	20	

教員研修
(88)模擬授業や事例研究など，実践的な研修を行っていますか

	よくしている	どちらかといえば，している+あまりしていない	合計	n	p
比較対象校	46.6%	53.4%	100.0%	58	*
効果のある学校	75.0%	25.0%	100.0%	20	

(91)授業研究を伴う校内研修を前年度，何回実施しましたか

	年間 15 回以上	年間 11 回から 14 回	年間 7 回から 10 回	年間 6 回以下	合計	n	p
比較対象校	24.1%	19.0%	20.7%	36.2%	100.0%	58	+
効果のある学校	40.0%	20.0%	35.0%	5.0%	100.0%	20	

「学校背景」

	上位	中位	下位	合計	n	p
比較対象校	22.4%	32.8%	44.8%	100.0%	58	*
効果のある学校	50.0%	30.0%	20.0%	100.0%	20	

４.「効果のある学校」の特徴（２）: 教師質問紙を用いた分析

次に、委託研究調査の際に 6 年生の担任教師に対して行った教師質問紙項目を用いて、「効果のある学校」と「比較対象校」とのクロス集計を行う。このことにより、「効果のある学校」の教師が、どのような指導を行っているのか、自校の特徴をどのように認識しているのかを明らかにする。分析にあたっては、ある選択肢に対する回答が少ない場合は隣接する選択肢と合わせる、5 件法や 7 件法の質問紙項目は 3 件法に直すなど、適宜選択肢をまとめてクロス集計を行った。

結果

教師質問紙項目とのクロス集計の結果、「効果のある学校」の教師に見られた特徴は以下の表 6 のようなものである。カイ 2 乗検定の結果、5%水準で有意だった項目を以下に挙げる。

クロス集計を行ったところ、全体の約 13%にあたる項目（115 項目中 15 項目）で、5%水準での有意差が検出された。国語と算数の授業の進め方や宿題の内容、学校と家庭・保護者との関係、得意科目などに特徴が見いだされた。

「学校外の協力者を活用した授業」「授業参観・懇談会への保護者の参加」「学校の教育活動に対する保護者のかかわり」など、地域や保護者との連携に関係する項目が多いことが注目される。

表 6　教師質問紙項目とのクロス集計結果要約

			選択肢	効果のある学校	比較対象校	差（効果のある学校-比較対象校）	p
2 授業の進め方	国語	学校外の協力者を活用した授業	非常に多い+やや多い	14.0%	3.8%	10.2%	*
		学習内容の活用を重視した授業	非常に多い+やや多い	50.0%	26.3%	23.7%	**
		自作のプリント・教材を使う授業	非常に多い+やや多い	42.0%	27.5%	14.5%	*
	算数の授業	他教科の内容と関連づけた授業	非常に多い+やや多い	18.0%	4.5%	13.5%	**
		「総合的な学習の時間」と関連づけた授業	非常に多い+やや多い	10.0%	1.5%	8.5%	*
		学校外の協力者を活用した授業	非常に多い+やや多い	8.0%	0.8%	7.2%	*
		コンピューターを使う授業	やや少ない+非常に少ない	56.0%	72.7%	-16.7%	**
3 宿題	国語の宿題の内容	次の単元の予習	非常に多い+やや多い	10.6%	3.0%	7.6%	*
		授業でやり残した作業や課題	非常に多い+やや多い	40.8%	25.8%	15.1%	*
	算数の宿題の内容	次の単元の予習	非常に多い+やや多い	8.2%	1.5%	6.6%	*
5 勤務校の特徴	学校と家庭・保護者との関係	授業参観・懇談会への保護者の参加	積極的(5+6+7)	56.0%	50.4%	5.6%	**
		学校の教育活動に対する保護者のかかわり	積極的(5+6+7)	57.1%	44.4%	12.8%	**
6 自身のふだんの教育活動	通常日の退勤時刻		8 時半以降	34.0%	13.6%	20.4%	*
7 自分自身について	とくに得意としている科目	保健体育	あてはまる	28.0%	14.9%	13.1%	*
		総合的な学習	あてはまる	10.0%	3.0%	7.0%	*

表 7　教師質問紙項目とのクロス集計

2 授業の進め方

A. 国語の授業

9 学校外の協力者を活用した授業

	非常に多い+やや多い	どちらともいえない	やや少ない+非常に少ない	合計	n	p
比較対象校	3.8%	20.3%	75.9%	100.0%	133	*
効果のある学校	14.0%	24.0%	62.0%	100.0%	50	

11 学習内容の活用を重視した授業

	非常に多い+やや多い	どちらともいえない	やや少ない+非常に少ない	合計	n	p
比較対象校	26.3%	61.7%	12.0%	100.0%	133	**
効果のある学校	50.0%	34.0%	16.0%	100.0%	50	

18 自作のプリント・教材を使う授業

	非常に多い+やや多い	どちらともいえない	やや少ない+非常に少ない	合計	n	p
比較対象校	27.5%	42.0%	30.5%	100.0%	131	*
効果のある学校	42.0%	46.0%	12.0%	100.0%	50	

B. 算数の授業

7 他教科の内容と関連づけた授業

	非常に多い+やや多い	どちらともいえない	やや少ない+非常に少ない	合計	n	p
比較対象校	4.5%	33.3%	62.1%	100.0%	132	**
効果のある学校	18.0%	36.0%	46.0%	100.0%	50	

8「総合的な学習の時間」と関連づけた授業

	非常に多い+やや多い	どちらともいえない	やや少ない+非常に少ない	合計	n	p
比較対象校	1.5%	26.5%	72.0%	100.0%	132	*
効果のある学校	10.0%	30.0%	60.0%	100.0%	50	

9 学校外の協力者を活用した授業

	非常に多い+やや多い	どちらともいえない	やや少ない+非常に少ない	合計	n	p
比較対象校	0.8%	13.6%	85.6%	100.0%	132	*
効果のある学校	8.0%	20.0%	72.0%	100.0%	50	

12 コンピューターを使う授業

	非常に多い+やや多い	どちらともいえない	やや少ない+非常に少ない	合計	n	p
比較対象校	12.9%	14.4%	72.7%	100.0%	132	**
効果のある学校	6.0%	38.0%	56.0%	100.0%	50	

3 宿題

3-A-3）国語の宿題の頻度　4 次の単元の予習

	非常に多い+やや多い	やや少ない+非常に少ない	合計	n	p
比較対象校	3.0%	97.0%	100.0%	132	*
効果のある学校	10.6%	89.4%	100.0%	47	

3-A-3）国語の宿題の頻度　5 授業でやり残した作業や課題

	非常に多い+やや多い	やや少ない+非常に少ない	合計	n	p
比較対象校	25.8%	74.2%	100.0%	132	*
効果のある学校	40.8%	59.2%	100.0%	49	

3-B-3）算数の宿題の頻度　4 次の単元の予習

	非常に多い+やや多い	やや少ない+非常に少ない	合計	n	p
比較対象校	1.5%	98.5%	100.0%	130	*
効果のある学校	8.2%	91.8%	100.0%	49	

5 勤務校の特徴

5-3）学校と家庭・保護者との関係　3 授業参観・懇談会への保護者の参加

	1-3 消極的	4 普通	5-7 積極的	合計	n	p
比較対象校	34.6%	15.0%	50.4%	100.0%	133	**
効果のある学校	8.0%	36.0%	56.0%	100.0%	50	

5-3）学校と家庭・保護者との関係　4 学校の教育活動に対する保護者のかかわり

	1-3 消極的	4 普通	5-7 積極的	合計	n	p
比較対象校	28.6%	27.1%	44.4%	100.0%	133	**
効果のある学校	4.1%	38.8%	57.1%	100.0%	49	

6 自身のふだんの教育活動

6-4）通常日の退勤時刻

	5 時ごろ+5 時半ごろ	6 時ごろ	6 時半ごろ	7 時ごろ	7 時半ごろ	8 時ごろ	8 時半以降	合計	n	p
比較対象校	3.8%	12.1%	13.6%	20.5%	17.4%	18.9%	13.6%	100.0%	132	*
効果のある学校	10.0%	6.0%	10.0%	8.0%	20.0%	12.0%	34.0%	100.0%	50	

7 自分自身について

7-5）とくに得意としている科目　保健体育

	当てはまらない	当てはまる	合計	n	p
比較対象校	85.1%	14.9%	100.0%	134	*
効果のある学校	72.0%	28.0%	100.0%	50	

7-5）とくに得意としている科目　総合的な学習

	当てはまらない	当てはまる	合計	n	p
比較対象校	97.0%	3.0%	100.0%	134	*
効果のある学校	90.0%	10.0%	100.0%	50	

５.「効果のある学校」の特徴（３）: 児童質問紙を用いた分析

次に、「効果のある学校」/「比較対象校」と全国学力・学習状況調査の児童質問紙項目とのクロス集計を行ってみることにしよう。ここでは特に、「学校背景」下位の学校に対象をしぼって、家計の収入が少ないなどの家庭環境のもとにある子どもたちが多い中で、そのような子どもの基礎学力の底上げに成功している学校の特徴を明らかにする。

なお、本節で分析対象とする学校は「学校背景」下位の 30 校（そのうち、「効果のある学校」は 4 校、「比較対象校」は 26 校）である。分析にあたっては、ある選択肢に対する 30 校の児童の回答が 10 人に満たない場合は、隣接する選択肢と合わせてクロス集計を行った。

結果

全国学力・学習状況調査の児童質問紙項目とのクロス集計の結果、「効果のある学校」の児童に見られた特徴は以下の表 8 のようなものである。カイ 2 乗検定の結果、5%水準で有意だった項目を以下に挙げる。

表 8　全国学力・学習状況調査の児童質問紙項目とのクロス集計結果要約

領域	児童質問紙項目	選択肢	効果のある学校	比較対象校	差（効果のある学校-比較対象校）	p
生活習慣	(3)毎日，同じくらいの時刻に寝ていますか	している+どちらかといえば，している	74.2%	69.4%	4.8%	*
	(9)普段(月～金曜日)，何時ごろに起きますか	午前 7 時より前	69.4%	60.6%	8.7%	**
	(10)普段(月～金曜日)，何時ごろに寝ますか	午後 10 時より前	42.3%	37.8%	4.6%	*
学習習慣	(17)土曜日や日曜日など学校が休みの日に，1 日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか	全くしない	8.1%	13.0%	-5.0%	*
	(18)家や図書館で，普段(月～金曜日)，1 日当たりどれくらいの時間，読書をしますか	全くしない	12.9%	22.2%	-9.3%	**
	(25)家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	している+どちらかといえば，している	61.3%	51.7%	9.6%	**
	(27)家で学校の授業の予習をしていますか	している+どちらかといえば，している	37.9%	32.8%	5.1%	**
	(28)家で学校の授業の復習をしていますか	している+どちらかといえば，している	50.0%	42.0%	8.0%	**
	(49)テストで間違えた問題について，間違えたところを後で勉強していますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	73.3%	61.4%	11.9%	**
自尊感情	(5)ものごとを最後までやりとげて，うれしかったことがありますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	97.6%	93.6%	4.0%	**
	(6)難しいことでも，失敗をおそれないで挑戦していますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	80.2%	73.3%	6.9%	*
	(7)自分には，よいところがあると思いますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	80.6%	75.4%	5.2%	**
規範意識	(34)学校のきまりを守っていますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	91.1%	83.6%	7.6%	*
	(35)友達との約束を守っていますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	99.2%	96.5%	2.7%	*

領域	児童質問紙項目	選択肢	効果のある学校	比較対象校	差（効果のある学校-比較対象校）	p
規範意識	(36)人が困っているときは，進んで助けていますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	85.9%	78.7%	7.1%	**
	(37)近所の人に会ったときは，あいさつをしていますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	93.1%	88.0%	5.2%	**
	(38)人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	96.0%	92.0%	4.0%	*
	(40)人の役に立つ人間になりたいと思いますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	96.0%	92.6%	3.4%	**
	(43)体の不自由な人やお年寄りや，困っている人の手助けをしたことがありますか	何度もあった+時々あった	52.8%	41.8%	11.0%	*
家庭でのコミュニケーション	(22)家の人と学校での出来事について話をしていますか	している+どちらかといえば，している	82.3%	72.5%	9.7%	**
	(23)家の手伝いをしていますか	よくしている+時々している	88.7%	78.8%	9.9%	**
社会や地域への関心	(31)新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	76.6%	65.1%	11.5%	**
	(32)今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	56.9%	47.0%	9.8%	**
体験的活動の経験	(44)包丁やナイフを使って調理をしたことがありますか	何度もあった+時々あった	90.7%	88.2%	2.5%	*
総合的な学習への関心	(45)「総合的な学習の時間」の勉強は好きですか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	80.2%	70.3%	9.9%	**
	(46)「総合的な学習の時間」の授業では，新しいことを発見できると思いますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	77.4%	68.0%	9.4%	**
	(47)「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは，普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	81.5%	74.1%	7.3%	**
国語への関心	(50)国語の勉強は好きですか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	69.8%	55.8%	14.0%	**
	(51)国語の勉強は大切だと思いますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	95.6%	90.5%	5.1%	**
	(52)国語の授業の内容はよく分かりますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	86.7%	78.4%	8.3%	**
	(53)読書は好きですか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	79.0%	70.2%	8.8%	**
	(54)新しく習った漢字を実際の生活で使おうとしていますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	83.5%	74.5%	9.0%	**
	(55)国語の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	92.3%	87.0%	5.3%	**
	(56)国語の授業で目的に応じて資料を読み，自分の考えを話したり，書いたりしていますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	70.6%	54.8%	15.7%	**
	(57)国語の授業で意見などを発表するとき，うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	65.3%	56.0%	9.3%	**
	(58)国語の授業で自分の考えを書くとき，考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	74.2%	66.0%	8.2%	**
	(60)解答を文章で書く問題について，どのように解答しましたか	最後まで解答を書こうと努力した	78.5%	67.7%	10.8%	**
算数への関心	(61)算数の勉強は好きですか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	75.8%	65.1%	10.7%	**
	(62)算数の勉強は大切だと思いますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	97.6%	92.2%	5.4%	**
	(63)算数の授業の内容はよく分かりますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	85.5%	76.6%	8.9%	*
	(64)算数の授業で新しい問題に出合ったとき，それを解いてみたいと思いますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	82.7%	76.3%	6.4%	**
	(65)算数の問題の解き方が分からないときは，あきらめずにいろいろな方法を考えますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	84.7%	75.1%	9.6%	**
	(66)算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	76.6%	66.3%	10.3%	**
	(67)算数の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	94.4%	88.1%	6.3%	**
	(69)算数の授業で公式やきまりを習うとき，そのわけを理解するようにしていますか	当てはまる+どちらかといえば，当てはまる	88.3%	75.7%	12.6%	**
	(71)言葉や式を使って，わけや求め方を書く問題について，どのように解答しましたか	最後まで解答を書こうと努力した	77.2%	66.0%	11.2%	**

クロス集計を行ったところ、全体の約 65%にあたる項目（71 項目中 46 項目）で、5%水準での有意差が検出された。これは予想を上回る結果である。「学校背景」下位の学校のなかで、4 校存在する「効果のある学校」に通う子どもたちは、そうでない 26 校の子どもたちに比べると、圧倒的にポジティブな学校生活を送っているのである。「学習習慣」「自尊感情」「規範意識」「社会や地域への関心」「総合的な学習への関心」「国語への関心」「算数への関心」などの各領域で、「効果のある学校」の子どもたちの回答はきわめて積極的なものとなっているのである。この結果は、社会経済的要因に起因する学力差を生じさせない「学校の力」の存在を示唆するものと考えることができる。

表 9　全国学力・学習状況調査の児童質問紙項目とのクロス集計

生活習慣

(3)毎日，同じくらいの時刻に寝ていますか

	している	どちらかといえば，している	あまりしていない	全くしていない	合計	n	p
比較対象校	31.9%	37.6%	22.9%	7.7%	100.0%	1350	*
効果のある学校	42.3%	31.9%	19.0%	6.9%	100.0%	248	

(9)普段(月～金曜日)，何時ごろに起きますか

	午前６時より前	午前６時以降，午前６時 30 分より前	午前６時 30 分以降，午前７時より前	午前７時以降，午前７時 30 分より前	午前７時 30 分以降，午前８時より前	午前８時以降	合計	n	p
比較対象校	4.8%	17.7%	38.1%	33.0%	5.7%	0.7%	100.0%	1348	**
効果のある学校	9.3%	22.2%	37.9%	28.2%	2.0%	0.4%	100.0%	248	

(10)普段(月～金曜日)，何時ごろに寝ますか

	午後９時より前	午後９時以降，午後 10 時より前	午後 10 時以降，午後 11 時より前	午後 11 時以降，午前０時より前	午前０時以降	合計	n	p
比較対象校	4.2%	33.6%	42.7%	15.9%	3.6%	100.0%	1350	*
効果のある学校	6.5%	35.9%	46.4%	10.1%	1.2%	100.0%	248	

学習習慣

(17)土曜日や日曜日など学校が休みの日に，１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか

	４時間以上	３時間以上，４時間より少ない	２時間以上，３時間より少ない	１時間以上，２時間より少ない	１時間より少ない	全くしない	合計	n	p
比較対象校	6.0%	4.2%	10.9%	26.1%	39.8%	13.0%	100.0%	1350	*
効果のある学校	2.8%	3.2%	14.1%	32.3%	39.5%	8.1%	100.0%	248	

(18)家や図書館で，普段(月～金曜日)，１日当たりどれくらいの時間，読書をしますか

	２時間以上	１時間以上，２時間より少ない	30 分以上，１時間より少ない	10 分以上，30 分より少ない	10 分より少ない	全くしない	合計	n	p
比較対象校	5.0%	10.0%	19.6%	25.3%	17.9%	22.2%	100.0%	1349	**
効果のある学校	6.0%	10.1%	25.8%	32.3%	12.9%	12.9%	100.0%	248	

(25)家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

	している	どちらかといえば，している	あまりしていない	全くしていない	合計	n	p
比較対象校	23.3%	28.4%	34.0%	14.3%	100.0%	1350	**
効果のある学校	32.7%	28.6%	28.2%	10.5%	100.0%	248	

(27)家で学校の授業の予習をしていますか

	している	どちらかといえば，している	あまりしていない	全くしていない	合計	n	p
比較対象校	11.5%	21.3%	40.1%	27.1%	100.0%	1350	**
効果のある学校	21.0%	16.9%	41.9%	20.2%	100.0%	248	

(28)家で学校の授業の復習をしていますか

	している	どちらかといえば，している	あまりしていない	全くしていない	合計	n	p
比較対象校	14.2%	27.8%	33.8%	24.2%	100.0%	1349	**
効果のある学校	20.6%	29.4%	35.1%	14.9%	100.0%	248	

(49)テストで間違えた問題について，間違えたところを後で勉強していますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	21.1%	40.3%	26.7%	11.9%	100.0%	1347	**
効果のある学校	30.0%	43.3%	19.0%	7.7%	100.0%	247	

自尊感情

(5)ものごとを最後までやりとげて，うれしかったことがありますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	68.9%	24.7%	5.3%	1.1%	100.0%	1350	**
効果のある学校	78.6%	19.0%	2.4%	0.0%	100.0%	248	

(6)難しいことでも，失敗をおそれないで挑戦していますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	21.3%	52.0%	22.8%	3.9%	100.0%	1350	*
効果のある学校	26.6%	53.6%	18.5%	1.2%	100.0%	248	

(7)自分には，よいところがあると思いますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	31.3%	44.1%	18.6%	6.0%	100.0%	1350	**
効果のある学校	46.4%	34.3%	15.3%	4.0%	100.0%	248	

規範意識

(34)学校のきまりを守っていますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	29.9%	53.7%	13.9%	2.5%	100.0%	1350	*
効果のある学校	35.9%	55.2%	7.7%	1.2%	100.0%	248	

(35)友達との約束を守っていますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない+当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	60.2%	36.3%	3.5%	100.0%	1350	*
効果のある学校	66.1%	33.1%	0.8%	100.0%	248	

(36)人が困っているときは，進んで助けていますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	24.7%	54.0%	18.9%	2.4%	100.0%	1350	**
効果のある学校	36.3%	49.6%	12.9%	1.2%	100.0%	248	

(37)近所の人に会ったときは，あいさつをしていますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	60.7%	27.3%	10.2%	1.8%	100.0%	1349	**
効果のある学校	72.2%	21.0%	5.6%	1.2%	100.0%	248	

(38)人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	66.4%	25.6%	6.1%	1.9%	100.0%	1350	*
効果のある学校	75.8%	20.2%	2.8%	1.2%	100.0%	248	

(40)人の役に立つ人間になりたいと思いますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	68.2%	24.4%	5.6%	1.8%	100.0%	1350	**
効果のある学校	80.2%	15.8%	2.8%	1.2%	100.0%	247	

(43)体の不自由な人やお年寄りや，困っている人の手助けをしたことがありますか

	何度もあった	時々あった	あまりなかった	全くなかった	合計	n	p
比較対象校	14.9%	26.9%	37.3%	20.9%	100.0%	1350	*
効果のある学校	19.4%	33.5%	29.8%	17.3%	100.0%	248	

家庭でのコミュニケーション

(22)家の人と学校での出来事について話をしていますか

	している	どちらかといえば，している	あまりしていない	全くしていない	合計	n	p
比較対象校	39.7%	32.8%	19.8%	7.6%	100.0%	1347	**
効果のある学校	47.2%	35.1%	11.7%	6.0%	100.0%	248	

(23)家の手伝いをしていますか

	よくしている	時々している	あまりしていない	全くしていない	合計	n	p
比較対象校	27.4%	51.4%	17.5%	3.7%	100.0%	1350	**
効果のある学校	40.7%	48.0%	8.5%	2.8%	100.0%	248	

社会や地域への関心

(31)新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	25.4%	39.7%	26.4%	8.5%	100.0%	1350	**
効果のある学校	35.5%	41.1%	16.9%	6.5%	100.0%	248	

(32)今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	18.2%	28.8%	35.0%	18.0%	100.0%	1350	**
効果のある学校	26.2%	30.6%	31.5%	11.7%	100.0%	248	

体験的活動の経験

(44)包丁やナイフを使って調理をしたことがありますか

	何度もあった	時々あった	あまりなかった	全くなかった	合計	n	p
比較対象校	58.6%	29.6%	9.0%	2.8%	100.0%	1346	*
効果のある学校	67.7%	23.0%	5.2%	4.0%	100.0%	248	

総合的な学習への関心

(45)「総合的な学習の時間」の勉強は好きですか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	30.1%	40.1%	21.3%	8.4%	100.0%	1350	**
効果のある学校	43.5%	36.7%	15.7%	4.0%	100.0%	248	

(46)「総合的な学習の時間」の授業では，新しいことを発見できると思いますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	26.4%	41.6%	25.0%	7.0%	100.0%	1349	**
効果のある学校	36.3%	41.1%	20.2%	2.4%	100.0%	248	

(47)「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは，普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	33.7%	40.4%	19.6%	6.3%	100.0%	1349	**
効果のある学校	47.6%	33.9%	15.3%	3.2%	100.0%	248	

国語への関心

(50)国語の勉強は好きですか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	20.3%	35.5%	29.0%	15.2%	100.0%	1347	**
効果のある学校	29.4%	40.3%	20.6%	9.7%	100.0%	248	

(51)国語の勉強は大切だと思いますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	58.0%	32.5%	7.1%	2.4%	100.0%	1347	**
効果のある学校	73.4%	22.2%	2.8%	1.6%	100.0%	248	

(52)国語の授業の内容はよく分かりますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	28.8%	49.6%	16.6%	5.1%	100.0%	1346	**
効果のある学校	39.9%	46.8%	11.3%	2.0%	100.0%	248	

(53)読書は好きですか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	46.7%	23.5%	18.1%	11.7%	100.0%	1346	**
効果のある学校	47.2%	31.9%	14.9%	6.0%	100.0%	248	

(54)新しく習った漢字を実際の生活で使おうとしていますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	41.1%	33.4%	19.8%	5.7%	100.0%	1347	**
効果のある学校	55.6%	27.8%	12.1%	4.4%	100.0%	248	

(55)国語の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	54.1%	32.9%	9.6%	3.4%	100.0%	1347	**
効果のある学校	69.4%	23.0%	5.2%	2.4%	100.0%	248	

(56)国語の授業で目的に応じて資料を読み，自分の考えを話したり，書いたりしていますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	15.7%	39.2%	35.3%	9.9%	100.0%	1346	**
効果のある学校	25.4%	45.2%	24.2%	5.2%	100.0%	248	

(57)国語の授業で意見などを発表するとき，うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	15.9%	40.1%	32.7%	11.3%	100.0%	1346	**
効果のある学校	24.6%	40.7%	28.6%	6.0%	100.0%	248	

(58)国語の授業で自分の考えを書くとき，考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	25.1%	40.9%	27.8%	6.2%	100.0%	1346	**
効果のある学校	34.7%	39.5%	21.8%	4.0%	100.0%	248	

(60)解答を文章で書く問題について，どのように解答しましたか

	最後まで解答を書こうと努力した	途中であきらめたものがあった	書く問題は全く解答しなかった	合計	n	p
比較対象校	67.7%	29.9%	2.4%	100.0%	1338	**
効果のある学校	78.5%	20.2%	1.2%	100.0%	242	

算数への関心

(61)算数の勉強は好きですか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	36.0%	29.0%	19.1%	15.8%	100.0%	1346	**
効果のある学校	50.0%	25.8%	15.3%	8.9%	100.0%	248	

(62)算数の勉強は大切だと思いますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	70.9%	21.3%	5.6%	2.2%	100.0%	1346	**
効果のある学校	83.5%	14.1%	1.2%	1.2%	100.0%	248	

(63)算数の授業の内容はよく分かりますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	44.2%	32.4%	17.6%	5.8%	100.0%	1346	*
効果のある学校	51.2%	34.3%	11.7%	2.8%	100.0%	248	

(64)算数の授業で新しい問題に出合ったとき，それを解いてみたいと思いますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	50.8%	25.5%	15.2%	8.5%	100.0%	1346	**
効果のある学校	64.5%	18.1%	12.1%	5.2%	100.0%	248	

(65)算数の問題の解き方が分からないときは，あきらめずにいろいろな方法を考えますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	42.8%	32.3%	19.6%	5.4%	100.0%	1345	**
効果のある学校	54.4%	30.2%	12.5%	2.8%	100.0%	248	

(66)算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	31.3%	35.0%	23.8%	9.9%	100.0%	1345	**
効果のある学校	46.4%	30.2%	14.9%	8.5%	100.0%	248	

(67)算数の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	64.5%	23.6%	8.7%	3.2%	100.0%	1345	**
効果のある学校	77.8%	16.5%	4.0%	1.6%	100.0%	248	

(69)算数の授業で公式やきまりを習うとき，そのわけを理解するようにしていますか

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない	合計	n	p
比較対象校	40.7%	34.9%	18.8%	5.5%	100.0%	1345	**
効果のある学校	55.6%	32.7%	7.3%	4.4%	100.0%	248	

(71)言葉や式を使って，わけや求め方を書く問題について，どのように解答しましたか

	最後まで解答を書こうと努力した	途中であきらめたものがあった	書く問題は全く解答しなかった	合計	n	p
比較対象校	66.0%	31.5%	2.5%	100.0%	1334	**
効果のある学校	77.2%	21.1%	1.6%	100.0%	246	

６．まとめ

様々な家庭環境の子どもの学力を支えている「効果のある学校」は、「学習規律の徹底」「全国学力・学習状況調査の活用」「国語の指導法」「教員研修」などの学校質問紙項目に特徴が見られた。また、教師質問紙項目からは、国語と算数の「授業の進め方」や「宿題の内容」、「学校と家庭・保護者との関係」に特徴が見られた。ただし、家計の収入が少ないなどの家庭環境にある子どもが少ない学校の方が、「効果のある学校」になりやすいことが確認され、そのような子どもが多い学校が「効果のある学校」となることの難しさが確認された。そのような子どもが多い中で、「効果のある学校」と認められる学校の学校単位の特徴を明らかにすることは、今後の課題としたい。

家計の収入が少ないなどの家庭環境にある子どもが多い中で「効果のある学校」と認められる学校の子どもは、「学習習慣」「自尊感情」「規範意識」「社会や地域への関心」「総合的な学習への関心」「国語への関心」「算数への関心」などの各領域で、きわめて積極的な回答をしており、ポジティブな学校生活を送っていた。この結果は、社会経済的な要因による低学力を克服する「学校の力」の存在を示唆するものと考えることができる。

本分析において、「効果のある学校」の学校と教師の特徴、家計の収入が少ないなどの子どもが多いながらも「効果のある学校」と認められる学校の児童単位の特徴が明らかとなった。不利な環境にある子どもが多いながらも「効果のある学校」として認められる学校や教師の特徴を明らかにすることは、今後の課題としたい。

７．留意事項

「効果のある学校」研究には、確立した唯一の方法があるわけではない。今回用いた方法は、不利な環境にある子どもが少ないほど「効果のある学校」となりやすいという問題があり、そのような子どもが多い学校の努力を見落とす可能性がある。この問題については、「効果のある学校」研究に取り組む

研究者により、新たな分析手法の提案がなされつつあり（例えば、志水（2009b）第 12 章）、本報告で用いた方法以外の分析方法も考えられる。また、今回クロス集計により見出された特徴が「効果のある学校」の特徴すべてではなく、すべての学校に普遍化することには慎重である必要がある。「効果のある学校」を形成する要因は、きわめて複合的であると考えられ、過去の研究でも決まった特徴が見いだされているわけではない。それぞれの学校や地域には、固有の実態がある。現場での取組に当たっては、それぞれの実態に応じた取組が必要である。「効果のある学校」を形成する要因を探求するには、量的分析手法を高度化することに加え、参与観察やインタビュー等の質的研究も必要であると考えられる。

＜参考文献＞

Edmonds, R. P. 1979. "Effective Schools for Urban Poor", *Educational Leadership*, Vol. 37, No. 1, pp. 15-24.

鍋島祥郎 2003 『効果のある学校－学力不平等を乗り越える学校』解放出版社.

志水宏吉 2005 『学力を育てる』岩波新書.

志水宏吉 2009a「階層差を克服する学校効果－『効果のある学校』論からの分析」、ベネッセ教育研究開発センター『教育格差の発生・解消に関する調査研究報告書』第 3 章.

志水宏吉編 2009b 『「力のある学校」の探究』大阪大学出版会.